茨城県教育財団文化財調査報告第195集

金田西・西坪B遺跡

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ

平成14年3月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第195集

金田西（こんだにし）・西坪（にしつぼ）B遺跡

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ

平成14年3月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人　茨城県教育財団

序

つくば市は，国際交流の拠点にふさわしい町づくりを進めております。この町づくりの一環として，つくば市と都市基盤整備公団茨城地域支社は，市と東京圏を直結する「つくばエクスプレス」の開発と同時に，沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業を計画的に推進しています。

財団法人茨城県教育財団は，都市基盤整備公団茨城地域支社から中根・金田台特定土地区画整理事業地内の埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，中谷津遺跡，中原遺跡及び上野陣場遺跡の発掘調査を実施してまいりました。その成果はすでに当財団の文化財調査報告第139・155・159・170集として報告し，さらに今年度も調査・整理を進めております。

本書は，金田西・西坪Ｂ遺跡の平成12年度における確認調査の成果を収録したものであります。本書が，研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，教育・文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお，発掘調査及び整理を進めるにあたり，委託者である都市基盤整備公団茨城地域支社から賜りました多大なる御協力に対し，心から御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，つくば市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から御指導・御協力を賜りましたことに対し，衷心より感謝の意を表します。

平成14年３月

財団法人　茨城県教育財団

理事長　齋　藤　佳　郎

例　　言

1　本書は，都市基盤整備公団茨城地域支社の委託により財団法人茨城県教育財団が平成12年７月から平成13年１月まで確認調査を実施した，つくば市大字金田字吹上1481番地，同市大字金田字長者塚1540番地ほかに所在する金田西・西坪Ｂ遺跡の確認調査報告書である。

2　当遺跡の確認調査期間及び整理期間は，以下のとおりである。

調　　査　　第１期　平成12年７月１日～平成12年10月31日

　　第２期　平成13年１月４日～平成13年１月31日

整　　理　　平成13年４月１日～平成14年３月31日

3　当遺跡の確認調査は，調査第二課長鈴木美治の指揮のもと，調査第二課第１班長瓦吹堅，主任調査員村上和彦，同長谷川聡を中心に，主任調査員小竹茂美，副主任調査員宮田和男，同大塚雅昭，同荒蒔克一郎が調査した。

4　当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は，整理第二課長瓦吹堅の指揮のもと，主任調査員川上直登，同長谷川聡，副主任調査員大塚雅昭が担当した。執筆分担は，以下のとおりである。

川上　　例言　凡例　抄録

長谷川　　第３章　まとめ

大塚　　第１章　第２章

5　平成13年度茨城県遺跡地図の改定に伴い西坪Ｂ遺跡が金田西坪Ｂ遺跡と名称が変更されたが，本書においては旧遺跡名を使用する。

凡　　例

1　遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を用いて区画し，Ｘ軸＝＋10760.000m，Ｙ軸＝＋26840.000mの交点を（Ａ１ａ１）とした。

大調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西，南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へＡ，Ｂ，Ｃ…，西から東へ１，２，３…とし，「Ａ１区」，「Ｂ２区」のように呼称した。小調査区も同様に北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「Ａ１ａ１区」，「Ｂ２ｂ２区」のように呼称した。

2　土層と遺物の観察における色調の判定には，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

3　遺構，土層に使用した記号は，次のとおりである。

遺　　構　　住居跡－ＳＩ　溝－ＳＤ　道路跡－ＳＦ

土　　層　　撹乱－Ｋ

4　遺構及び遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

粘土　　版築　　繊維土器断面

抄　　録

ふりがな	こんだにし・にしつぼびーいせき
書名	金田西・西坪Ｂ遺跡
副書名	中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
巻次	Ⅵ
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第195集
著者名	川上直登　　長谷川聡　　大塚雅昭
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和１丁目356番地の２
発行機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和１丁目356番地の２
発行日	2002年(平成14年)３月25日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
金田西遺跡 （こんだにしいせき）	茨城県つくば市（いばらきけん つくばし） 大字金田字吹上（おおあざこんだあざふきあげ） 1481番地（ばんち）ほか	220522	36° 05′ 45″	140° 07′ 57″	25.9m ～ 26.5m	20000701 ～ 20010331	6,179m²	中根・金田台特定土地区画整理事業に伴う確認調査
西坪Ｂ遺跡 （にしつぼびーいせき）	茨城県つくば市（いばらきけん つくばし） 大字金田字長者（おおあざこんだあざちょうじゃ） 塚（づか）1540番地（ばんち）ほか	220110	36° 05′ 38″	140° 08′ 00″	25.8m ～ 26.2m	20000701 ～ 20010331	29,366m²	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金田西遺跡	官衙	奈良・平安	溝　３条 礎石建物跡１棟 竪穴住居跡１軒 道路跡　１条	縄文土器片（加曽利Ｅ式），土師器（坏），須恵器（坏・甕）	河内郡衙正倉院を区画する溝と礎石建物跡が確認された。
西坪Ｂ遺跡	集落	縄文時代	埋甕　１基	縄文土器片（加曽利Ｅ式）	
	官衙	奈良・平安	溝　５条 礎石建物跡８棟 掘立柱建物跡３棟 竪穴住居跡11軒	縄文土器片（加曽利Ｅ式），土師器（坏），須恵器（坏・甕）	

目　　次

序
例言
凡例
抄録
第1章　調査経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1
第２章　位置と環境 …… 2
　第１節　地理的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 2
第３章　調査の成果 …… 3
　第１節　遺跡の概要 …… 3
　第２節　トレンチの設定と概要 …… 3
　　１　金田西遺跡 …… 3
　　２　西坪Ｂ遺跡 …… 4
　第３節　遺構と遺物 …… 5
　　１　遺構 …… 5
　　(1)　溝 …… 5
　　(2)　礎石建物跡 …… 11
　　(3)　掘立柱建物跡 …… 20
　　(4)　その他の遺構 …… 23
　　２　遺構外出土遺物 …… 24
　第４節　まとめ …… 28

写真図版
付　図

第1図　金田・西坪B遺跡周辺図

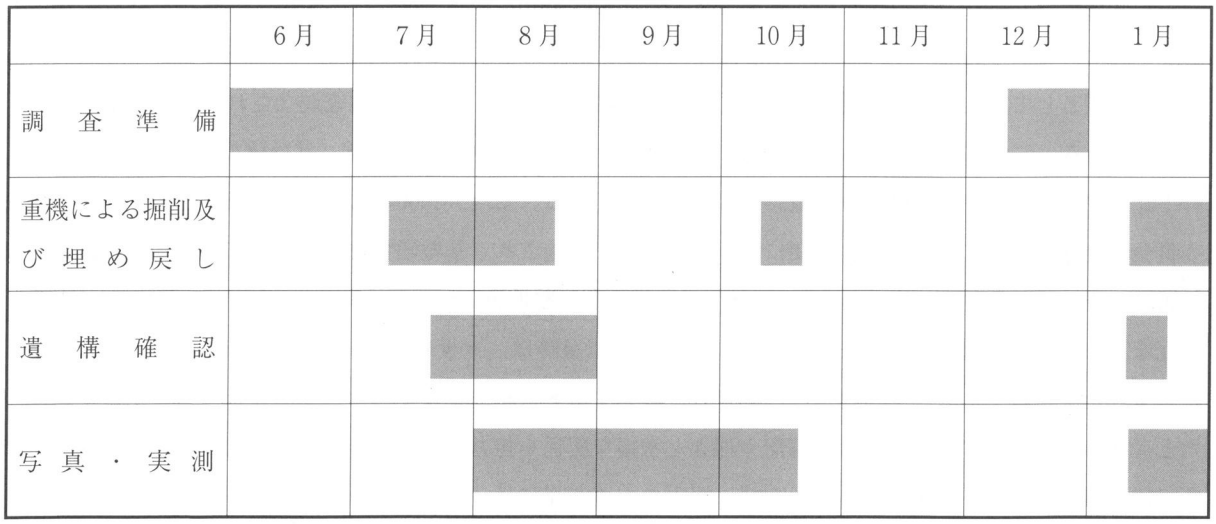
第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

つくば市は，国際交流の中心，科学技術をリードする研究開発の拠点として新しい町づくりを進めている。その一環として取り組んでいるのが，つくば市と東京圏を直結する「つくばエクスプレス」の建設とそれに伴う沿線開発である。中根・金田台地区については，住宅・都市整備公団つくば開発局（平成９年10月から住宅・都市整備公団茨城地域支社に，平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に名称を変更）を事業主体として，土地区画整理事業を進めている。

平成６年11月18日，住宅・都市整備公団つくば開発局は茨城県教育委員会あてに，中根・金田台特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これに対して茨城県教育委員会は平成７年５月15日から６月８日にかけて現地踏査を，平成12年３月６～９日，13日～15，17日に試掘・確認調査を実施し，事業地内において金田西・西坪Ｂ遺跡の所在を確認し，平成12年３月17日に都市基盤整備公団茨城地域支社及びつくば市教育委員会あてに，その旨を回答した。平成12年３月21日に都市基盤整備公団茨城地域支社は茨城県教育委員会と，事業地内に所在する金田西・西坪Ｂ遺跡の取り扱いについて協議した。その結果，３月21日，茨城県教育委員会は，都市基盤整備公団茨城地域支社あてに確認調査を実施する旨を回答し，調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。そこで，都市基盤整備公団茨城地域支社は財団法人茨城県教育財団と金田西・西坪Ｂの確認調査に関する委託契約を結び，財団法人茨城県教育財団は，平成12年７月１日から確認調査を開始した。

第2節　調査経過



第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

つくば市域は，筑波山の南西麓を南下する桜川の低地と，市の西側を南下する小貝川の低地及びそれらに挟まれた標高25～27mのほぼ平坦な台地からなり，つくば市の東方約5kmには霞ヶ浦，北端には筑波山がそれぞれ位置している。この台地の両端を流れる桜川と小貝川によって大きく開析された流域には，標高約5mほどの沖積低地が形成され，台地との標高差は約20mである。また，花室川，蓮沼川，東谷田川，西谷田川など中小河川が南流して，台地縁部を浅く開析している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ，千葉県北部から茨城県南部に広がる常総台地の一部であり，地質的には新生代第四紀洪積世に形成された地層が堆積する。下層は成田層及び竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層が主体をなし，その上に板橋層または常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層，さらにその上に関東ローム層が堆積し，最上部は腐植土層となっている。関東ローム層は，新期ロームに属し，武蔵野ローム，立川ロームに比定され，軽石層の分布からみると，富士・箱根火山群の活動に由来するものと考えられる。

金田西・西坪B遺跡は，つくば市桜庁舎北部のつくば市大字金田字吹上1481番地，同市大字金田字長者塚1540番地ほかに所在し，桜川の低地を望む標高24～25mの右岸台地上に立地している。遺跡周辺の土地利用の状況は，台地上が主として畑地，桜川流域の低地は水田として利用されている。

第2節　歴史的環境

当遺跡が位置する台地上には，九重東岡廃寺跡，郡衙関連遺跡の中原遺跡が所在している。これらの遺跡はいずれも近接しており，当遺跡から九重東岡廃寺跡は北西500m，中原遺跡は西700mに位置している。九重東岡廃寺跡は古くから瓦片・土師器片・須恵器片が多量に出土することが知られており，1984年に桜村史編さん事業の一環として，桜村教育委員会から委託された筑波大学によって一部の調査がなされ，東岡遺跡として報告されている。この調査で検出された遺構は基壇建物の一部，瓦溜め土坑の一部，井戸跡などであり，軒丸瓦・軒平瓦・平瓦・道具瓦・土師器片・須恵器片が出土している。また，2000年12月から2001年1月には，県教育委員会の委託を受けて茨城県教育財団により確認調査が実施され，基壇建物跡1棟，掘立柱建物跡12棟，竪穴住居跡21軒，瓦溜め土坑1基，土器溜め土坑1基，溝4条，整地層1か所が検出され，軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦などの多くが瓦溜め土坑から出土した。また，中原遺跡は，8世紀前葉から10世紀前葉までの約200年間に営まれた集落跡であり，当遺跡は河内郡正倉が確立する8世紀前葉までに，補完的な郡の倉庫が置かれていたと考えられ，正倉の確立以降は，郡衙や郡寺と密接な関係を持ちながら，経済的にも力を増大し，10世紀前葉以降に衰退していく集落である。その他，桜川の上流左岸には，筑波郡衙及び郡寺の平沢官衙遺跡や筑波廃寺跡（中台廃寺跡）も所在している。また，周辺部には160軒以上の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出された古墳時代から平安時代にまたがる柴崎遺跡や，九重廃寺系軒平瓦と筑波廃寺系軒丸瓦が出土した下大島遺跡などが立地している。

東岡・金田の台地上は，正倉跡・郡寺跡・郡衙跡（未確定），さらにこれらと関りの深い中原遺跡が隣接し，古代河内郡の政治・文化の中心であった様相を表出している。

第3章　調 査 の 成 果

第1節　遺跡の概要

当遺跡は，1959年に中学校校庭の拡張工事に伴い表土を除去した際，３間×４間の総柱掘立柱建物跡３棟が確認され，古代河内郡衙の一部と考えられた。周辺部からは炭化米が多量に出土することから倉庫群の存在も想定され，古代河内郡の中枢部として注目された。また，台地下東側には条里制遺構の本田遺跡が位置していたが，ほ場整備事業によって湮滅している。

今回の確認調査の目的は，金田西遺跡及び西坪Ｂ遺跡の遺跡の性格と範囲の確認であり，調査対象面積は35,545㎡である。確認調査は，基本的に日本平面直角座標第Ⅸ系座標のＸ軸及びＹ軸を基準としたトレンチによって実施し，部分的には拡張して遺構の規模を確認する調査法を採用した。

調査によって確認された遺構は，礎石建物跡９棟，掘立柱建物跡３棟，正倉域の区画溝５条のほか，竪穴住居跡12軒，溝２条，道路跡１条である。また，西坪Ｂ遺跡では縄文時代中期の集落跡と複合しており，調査区内から遺物収納箱（60×40×20㎝）に30箱の縄文土器が出土している。

第2節　トレンチの設定と概要

1　金田西遺跡

金田西遺跡では，正倉域の北辺を区画する東西方向の溝が想定されるため，南北方向に幅２ｍのトレンチを東から１～６トレンチと設定した。以下トレンチごとに遺構の確認状況を記する。

１トレンチ　Ｂ５ｆ１区から南へ約24ｍ（Ｂ５ｊ１区）。谷が入り込み，遺構は確認できなかった。

２トレンチ　Ｂ４ｇ６区から南へ約28ｍ（Ｃ４ｃ６区）。北部は耕作による撹乱や，時期や性格の不明な土坑が確認されたが，正倉域に関わると思われる遺構は確認できなかった。

３トレンチ　Ｂ３ｂ０区から南へ約38ｍ（Ｄ３ａ０区）。Ｃ３ｄ０区から区画溝である第１号溝及びそれを掘り込んでいる第７号溝が確認されている。第7号溝はコの字状を呈し，さらにその南には第６号溝が東西に検出され，当遺跡に隣接する中世城郭に伴う施設の一部ではないかと考えられる。３トレンチを第１・７号溝にそって西に拡張し，Ｃ３ｄ８区で第１号溝のコーナー部を確認した。

４トレンチ　Ｂ３ｄ５区から南へ約51ｍ（Ｄ３ｂ５区）。南行する第１号溝の西部に溝と平行して調査区の北部へ延びるものと思われる幅１～２ｍの硬化面があり，第１号道路跡とした。また，第１号溝を横切るように第６号溝が確認され，その溝にそって東部へ拡張したところ，溝に掘り込まれているが時期不明の第２号竪穴住居跡が確認された。

５トレンチ　Ｃ２ａ０区から南へ約52ｍ（Ｄ２ｄ０区）。北部で確認された第１号竪穴住居跡は，竈の存在は確認できたが，確認面の出土遺物が細片のため時期等は特定できなかった。また，トレンチの中央部からは縄文時代と思われる土坑が多数確認されたが，耕作による撹乱も受けている。

６トレンチ　Ｃ２ａ６区から南へ約17ｍ（Ｃ２ｆ６区）。土坑と思われる黒褐色の覆土をもつ遺構が数基確認されたが，時期・性格等は不明である。

2　西坪Ｂ遺跡

西坪Ｂ遺跡では，西辺を区画する南北の溝が想定されたので，東西方向に幅２ｍのトレンチを設定し，北から１～８トレンチとした。また，区画溝確認のため９～14トレンチをさらに設定し，さらに，建物跡の確認のため15・16トレンチを設定した。

１トレンチ　Ｆ２ａ１区から東へ約60ｍ（Ｆ３ａ７区）。耕作により削平されており，表土も薄く遺構は確認されなかった。

２トレンチ　Ｆ２ｆ２区から東へ約72ｍ（Ｆ３ｆ０区）。西部は１トレンチと同様に遺構は確認されなかったが，東部のＦ３ｆ７区で第１号溝を確認する。

３トレンチ　Ｆ２ｊ１区から東へ約81ｍ（Ｆ４ｊ１区）。西部から中央（Ｆ２ｊ５区）にかけて，時期・性格不明の溝及び土坑が確認されている。東部は谷の黒色土中に当初住居跡と考えられた地点（Ｇ３ａ７区）から区画溝西辺の第１号溝が確認されている。

４トレンチ　Ｇ１ｆ０区から東へ約95ｍ（Ｇ４ｆ４区）。中央部は谷のため遺構の確認が困難であったが，西部には時期・性格不明の溝や土坑が確認されている。東部のＧ３ｆ７区で第１号溝をＧ４ｆ３区で第３号溝を確認する。

５トレンチ　Ｈ２ａ６区から東へ約80ｍ（Ｈ４ａ６区）。西部から中央にかけては遺構が少なく，東部のＨ３ａ７区から第１号溝，また，Ｈ４ａ４区から第３号溝が確認されている。

６トレンチ　Ｈ２ｅ５区から東へ約75ｍ（Ｈ４ｅ４区）。東部のＨ３ｆ７区から第１号溝が確認されているほか，Ｈ３ｆ０区から縄文時代中期の埋甕が検出された。縄文土器の出土も多く，周囲に同時期の集落跡の存在が予想できた。

７トレンチ　Ｉ３ａ６区から東へ約15ｍ（Ｉ３ａ８区）。第１号溝の確認のためトレンチの長さを限定して設定する。Ｉ３ａ８区で第１号溝を確認するが，第３号溝は調査区域外へ伸びているものと思われ，確認できなかった。

８トレンチ　Ｉ３ｆ６区から東へ約37ｍ（Ｉ４ｅ５区）。第１号溝はＩ３ｆ８区で東へ直角に屈曲し，正倉域の南区画部と思われる部分に伸びる第２号溝とに分かれる。第２号溝の確認のため，南にトレンチを拡張するとともに，南部に東西方向の第９～第11トレンチを設定する。

９トレンチ　Ｊ３ａ７区から東へ約32ｍ（Ｊ４ａ５区）。西部Ｊ３ａ９区で第２号溝を確認する。表土層中及び確認面から縄文土器片が多数出土し，隅丸方形の竪穴住居跡や円形の土坑などを確認する。

10トレンチ　Ｊ３ｅ６区から東へ約44ｍ（Ｊ４ｅ６区）。Ｊ３ｆ９区で第２号溝を確認する。第２号溝に沿って11トレンチまで南へ拡張する。この拡張区においても第２号溝を確認でき，周辺部から縄文土器片が多数出土している。

11トレンチ　Ｊ３ｉ５区から東へ約40ｍ（Ｊ４ｉ６区）。中央部Ｊ３ｊ０区で第２号溝を確認する。縄文土器片が多数出土している。

12トレンチ　第１期の調査はＩ５ｂ３区から南へ約24ｍ（Ｉ５ｈ３区）で，Ｉ５ｂ３区で第２号掘立柱建物跡の東柱列を確認する。Ｉ５ｅ３区で第１号溝を確認した。そのためトレンチを東へ拡張して第１号溝と第２号掘立柱建物跡の範囲を確認する。その拡張区では第１号溝の幅が狭くなり，さらに第２号掘立柱建物跡は東へ伸びないことが確認された。第２期調査においては，Ｇ５ｅ３区から南へ約62ｍ（Ｉ５ａ３区）のトレンチを設定した。Ｈ５ａ３区一帯において確認面上に炭化米粒が多量に出土している。

13トレンチ　第１期の調査はＩ５ａ６区から南へ約49ｍ（Ｊ５ｃ６区）の調査区で，Ｉ５ｅ６区では第１号溝の

幅が狭くなる。Ｉ５ｇ６区から南は縄文土器片が多数出土し，重複の激しい土坑群も確認されている。さらに，第２号溝の確認のためＫ５ａ６区に調査区を設けたが，第２号溝は途切れてその付近に一部硬化面が確認された。第２期の調査では，Ｇ５ｅ６区から南へ約43m（Ｈ５ｅ６区）に調査区を設定し，南部からは縄文時代の竪穴住居跡と思われる円形の遺構が確認された。更に，第１期のトレンチ南部のＫ５ｆ６区から南へ約18m（Ｌ５ａ５区）に調査区を設定し，その南端において第５号溝を確認した。

14トレンチ　Ｉ６ｄ６区から南へ約126m（Ｌ６ｅ６区）。Ｉ６ｄ６区で第１号溝を確認し，そこから南へ約24mのＪ６ａ６区で第８号礎石建物跡を確認する。また，第２号溝がＪ６ａ８区，Ｊ６ｇ６区で確認され，南東コーナー部は弧を描くように曲がって北東方向に向かうことが確認された。さらに調査区の南端で竪穴住居跡４軒とＫ６ｇ６区で第５号溝を確認した。

15トレンチ　Ｇ４ｅ０区から南へ約67m（Ｉ５ｂ１区）。Ｋ４ａ０区から南へ約10m（Ｋ４ｄ０区）。Ｇ４ｅ０区において第１号礎石建物跡を確認し，更にＨ５ｄ１区で第５号礎石建物跡，Ｈ５ｇ１区で第６号礎石建物跡，Ｈ５ｉ１区では第７号礎石建物跡を確認した。この調査区内では，耕作による撹乱中からは炭化米粒が出土している。

16トレンチ　Ｇ５ｅ８区から南へ約60m（Ｈ５ｊ８区）。Ｇ５ｊ８区で第２号礎石建物跡を，Ｈ５ｄ８区で第３号礎石建物跡，Ｈ５ｈ８区で第４号礎石建物跡を確認する。第３号礎石建物跡の北部に第４号溝が重複して確認された。

区画溝と考えられる第１～５号溝，第１号基壇建物跡については一部を掘り込み，断面及び底面の観察を行ったが，礎石建物跡のほか，その他の土坑や住居跡の遺構については確認面での観察のみであるため，郡衙正倉域の成立や廃絶時期，また，その他の遺構との関係などについては今後の本調査の成果を待たなければならない。

第３節　遺構と遺物

今回の確認調査では，トレンチ部分についてのみ表土を除去し遺構の確認調査を実施した。一部の溝，基壇建物については土層観察を実施したが，その他の遺構は確認面での観察であるため，時期・性格等は今後の発掘調査に委ねることとし，以下，確認された遺構の概略について記することとする。

１　遺　　構

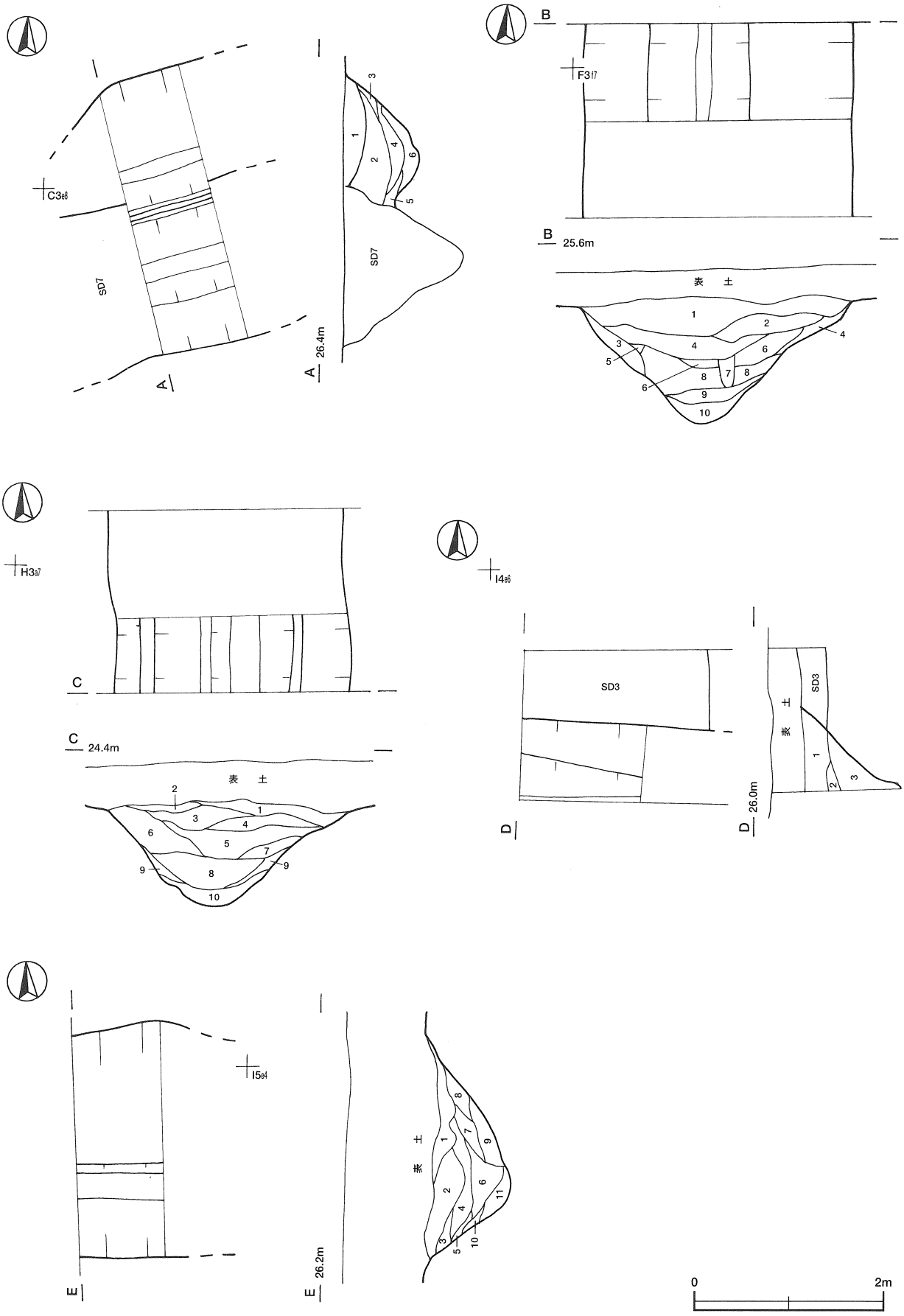
(1)　溝

第１号溝（第２図）

位置　調査区中央の平坦部に位置し，金田西遺跡のＣ４ｄ１区～Ｄ３ａ６区で北辺とコーナー部及び西辺，西坪Ｂ遺跡のＦ３ｆ７区～Ｉ３ｆ８区では西辺が，Ｉ３ｆ８区～Ｉ６ｄ６区では南辺がそれぞれ確認された。北辺から南16m，西辺から東19mに第９号礎石建物跡が，南辺から北55m，西辺から東48mに第１号礎石建物跡がそれぞれ存在する。

重複関係　金田西遺跡で北辺が第７号溝，西辺が第６号溝にそれぞれ掘り込まれている。西坪Ｂ遺跡の南西コーナー部では，第２号溝と重複しているが，未調査のため新旧関係は不明である。

規模と形状　上幅112～390cm，下幅20～42cmで，確認面からの深さは95～129cmである。断面形は薬研状で，底面がＵ字状を呈する部分が一部にある。確認できた長さは，北辺が14m，西辺が245m，南辺が112mの逆コ


C3e8
SD7
A
A 26.4m
B
F3f7
B 25.6m
表 土
H3a7
C
C 24.4m
表 土
I4e6
SD3
D
D 26.0m
表 土
I5e4
E
E 26.2m
表 土
0
2m

第2図　第1号溝実測図

の字状で，北辺と南辺の東部は調査区外に延びている。北西コーナー部は110°で屈曲している。南辺のコーナー部から東へ72mの地点では，長さ３mにわたって上幅が30～50cmと狭くなる。

方向　北辺はＮ－80°－Ｗ，西辺の北部はＮ－10°－Ｅであり，西坪Ｂ遺跡ではＮ－２°－Ｗで，コーナー部（Ｉ３ｆ８区）でほぼ直角に屈曲し，南辺はＮ－86°－Ｅである。

土層解説　A

1　黒褐色　ロームブロック中量，焼土・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック少量，焼土・炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック中量
6　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物微量

土層解説　B

1　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ロームブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子中量，炭化材・焼土粒子少量，ロームブロック微量
5　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量
7　黒褐色　ロームブロック微量
8　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，粘土ブロック微量
9　黒褐色　ローム粒子少量，炭化物・粘土ブロック微量
10　極暗褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量

土層解説　C

1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
2　黒褐色　ロームブロック中量，炭化物微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック・白色粒子微量
5　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・白色粒子・粘土ブロック微量
6　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・白色粒子微量
7　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
8　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック・白色粒子微量
9　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
10　黒褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

土層解説　D

1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

土層解説　E

1　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
6　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
8　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
10　暗褐色　ローム粒子中量
11　黒褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

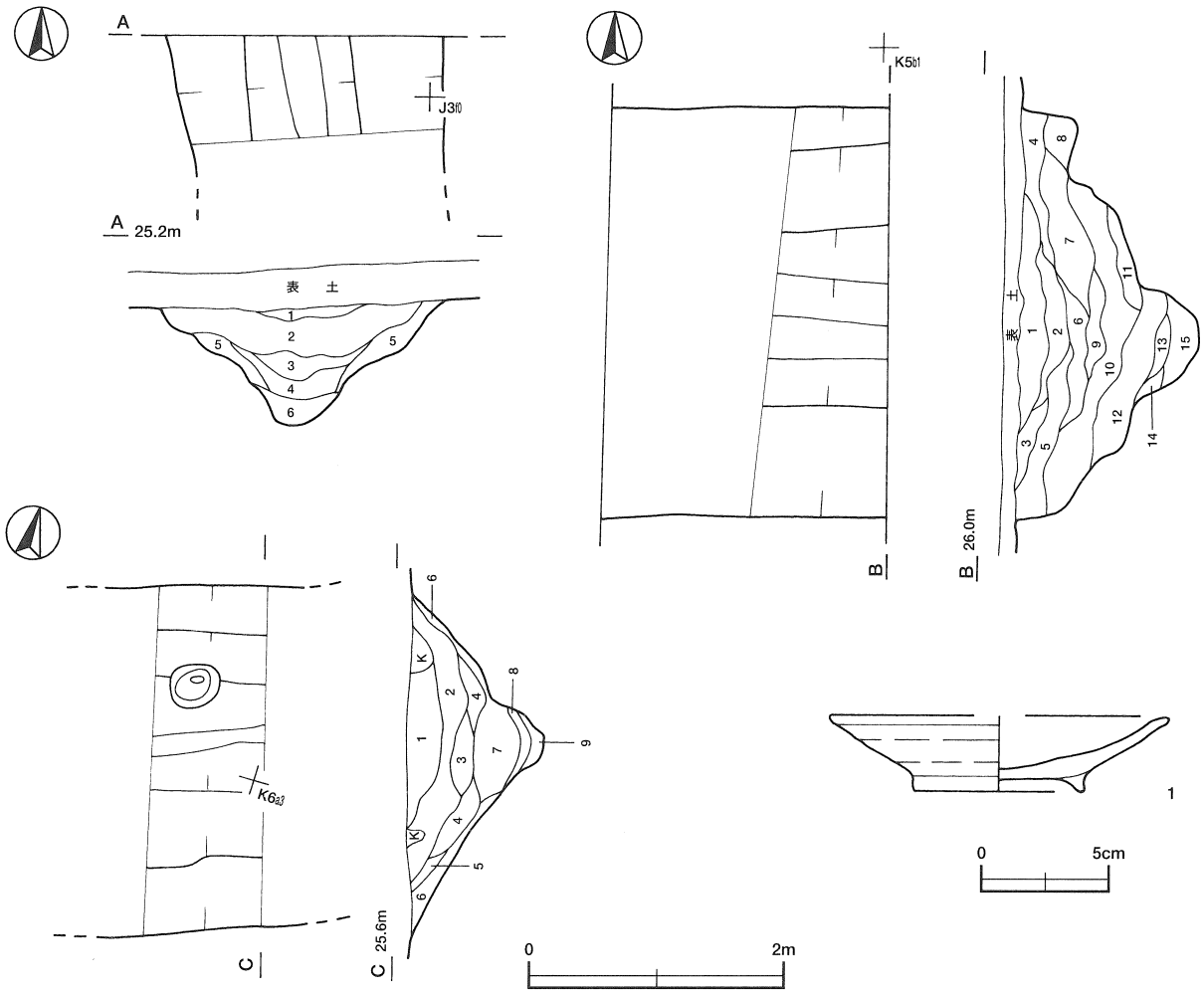
遺物出土状況　土層観察用のサブトレンチから，縄文土器片，土師器片，須恵器片が出土している。いずれも細片で，埋没過程に混入した物と思われる。中でも南辺部の調査区においては縄文土器片の出土量が多い。

所見　本跡は，規模や形状から河内郡衙正倉院を区画する溝であり，東西方向は地形から見て約150mは存在すると思われる。南辺の中央部にある幅の狭くなる部分は，推定される正倉域の中軸線上に位置し門跡と考えられ，その北部線上に建物跡がない。

第２号溝（第３図）

位置　調査区南部の平坦部，第１号溝が東へ屈曲するコーナー部のＩ３ｆ８区からＪ３ｊ０区，Ｋ４ｂ０区，Ｋ５ｂ５区及びＫ５ａ９区で南辺，Ｊ６ｈ５区，Ｉ６ｊ８区で東辺がそれぞれ確認された。東辺の西２mには第８号礎石建物跡が存在する。南部のＫ５ｂ６区の途切れる部分も門跡と考えられ，その北部線上には硬化した路面状の痕跡が点在する。

重複関係　第１号溝と分岐しているが新旧関係は未調査である。



第3図　第2号溝・出土遺物実測図

規模と形状　上幅220～330cm，下幅20～30cmで，確認面からの深さは95～130cmである。断面形は薬研状で，底面がU字状を呈する部分が一部にある。確認できた長さは，西辺が66m，南辺が約120mで，北東部は調査区外に延びるが，西辺と同様に，第1号溝の南辺部まで延びるものと思われる。南辺は西辺から東へ62mの地点で一度途切れ，K5b9区で再び確認されたが，途切れ部の長さは調査区外のため不明であり，門跡と考えられる。南東のコーナー部はK5b0区付近から弧を描くように曲がり，J6h5区に至る。

方向　西辺はI3f8区から南方向(N－5°－W)に延び，南辺はK4b0区から東方向(N－89°－E)で，K5b0区に至り，北東方向(N－30°－E)へ弧を描きJ6h5区から北北東方向(N－20°－E)に延びてI6j9区に至る。

土層解説　A

1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量

土層解説　B

1　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物少量
2　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化材少量
3　黒褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
4　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化材微量
5　極暗褐色　ローム粒子・炭化物中量，焼土粒子微量
6　黒褐色　ローム粒子中量，炭化物少量，焼土ブロック微量

7　黒褐色　ローム粒子微量，炭化材少量，焼土ブロック微量
8　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
9　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化材微量
10　黒褐色　ロームブロック・炭化材少量，焼土ブロック微量
11　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
12　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
13　黒褐色　ロームブロック微量
14　黒褐色　ローム小ブロック多量
15　暗褐色　ローム小ブロック多量

土層解説　C
1　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量
5　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　褐　色　ローム粒子少量，ロームブロック微量
7　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗褐色　ローム粒子少量
9　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック微量

遺物出土状況　土層観察用のサブトレンチから，縄文土器片，土師器片，須恵器片が出土している。いずれも本跡の埋没過程に混入した物と思われる。第３図１は須恵器の高台付皿で，Ｋ４ｂ０区（12トレンチ）の覆土中層から出土している。

所見　本跡は，第１号溝と同様に河内郡衙正倉院の区画溝と思われるが，正倉域の拡大や別院の存在も想定される別区画である。南辺の溝が途切れる部分は硬化面が点在し，そのほぼ真北68ｍに第１号溝の門跡部が位置することから，この部分も門跡と想定される。

第２号溝出土遺物観察表（第３図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	高台付皿	[13.5]	3.0	6.7	長石･雲母	にぶい黄	普通	底部回転ヘラ切り。 高台貼付け後，ナデ。	Ｋ５ａ１区	50%

第３号溝（第４図）

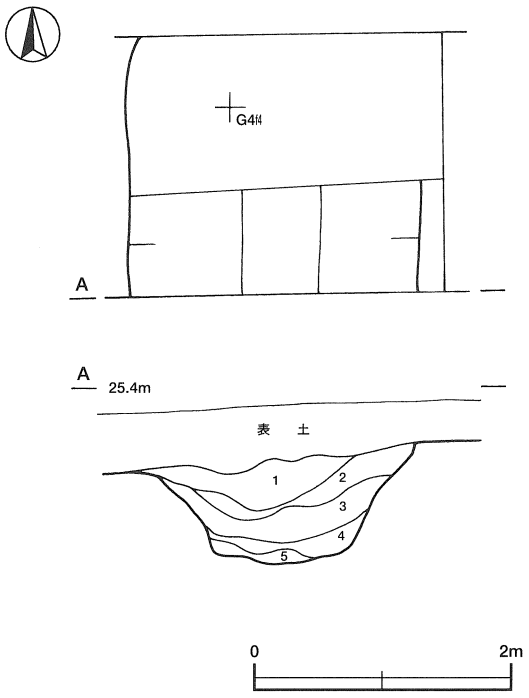
位置　調査区南部の平坦部，Ｇ４ｆ４区からＩ４ｅ６区で確認され，西28ｍに南北方向の第1号溝が平行し，東19ｍには第１号礎石建物跡が位置する。

重複関係　南端のＩ４ｅ６区で第１号溝に掘り込まれている。

規模と形状　上部は耕作のため削平されているが，確認できたのは上幅200～230㎝，下幅60㎝前後であり，確認面からの深さは90㎝である。断面形は薬研状であり，確認できた３か所を結ぶ直線と思われ，長さ78ｍが確認されている。

方向　Ｉ４ｅ６区からほぼ北方向(Ｎ－６°－Ｗ)に延び，Ｇ４ｆ５区に至る。

土層解説　A
1　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量



第４図　第３号溝実測図

遺物出土状況　土層観察用のサブトレンチから，縄文土器片，土師器片，須恵器片が出土している。いずれも本跡の埋没過程に混入した物と思われる。

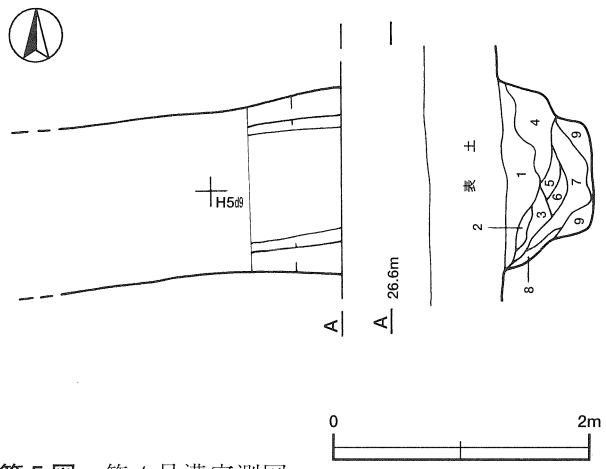
所見　本跡は，第１号溝によって区画された正倉院の内部施設を区画するものとも考えられるが，第１号溝との重複関係があることで第１号溝の区画より古い時期の区画溝の可能性も想定される。

第４号溝（第５図）

位置　調査区南部の平坦部，Ｈ５ｄ７区からＨ５ｄ９区で確認され，南辺で第３号礎石建物跡と接し，南44ｍに第１溝の南辺が位置する。

重複関係　本跡の南辺を第３号礎石建物跡が掘り込んでいる。

規模と形状　確認できたのは上幅130cm，下幅80cm，長さ6.5ｍの直線であり，Ｈ５ｄ７区で途切れる。確認面からの深さは90cm，断面形は逆台形を呈し，底面は平坦である。



第５図　第４号溝実測図

方向　確認された西端（Ｈ５ｄ７区）からＮ－95°－Ｅで東方向に延びる。

土層解説　A

1	黒褐色	ローム粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・粘土ブロック微量
3	黒褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック微量
4	暗褐色	ロームブロック・黒色土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
5	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
8	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
9	黒褐色	ロームブロック中量

所見　本跡は第３号礎石建物跡やそれと軸線を同じくする建物群と時間差が認められ，正倉院内部の施設を区画する溝の一部と想定される。

第５号溝（第６図）

位置　調査区南端の平坦部，Ｋ５ｊ５区，Ｋ５ｉ８区，Ｋ６ｇ６区で東西方向に確認され，北33ｍには第２号溝が位置する。

重複関係　Ｋ５ｊ５区で竪穴住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　上幅240～250cm，下幅15～80cmが確認でき，深さは90～110cmである。断面形は薬研状である。Ｋ５ｊ５区で検出された南壁は外傾して立ち上がる。確認した３か所を結ぶと長さ47ｍの直線となる。

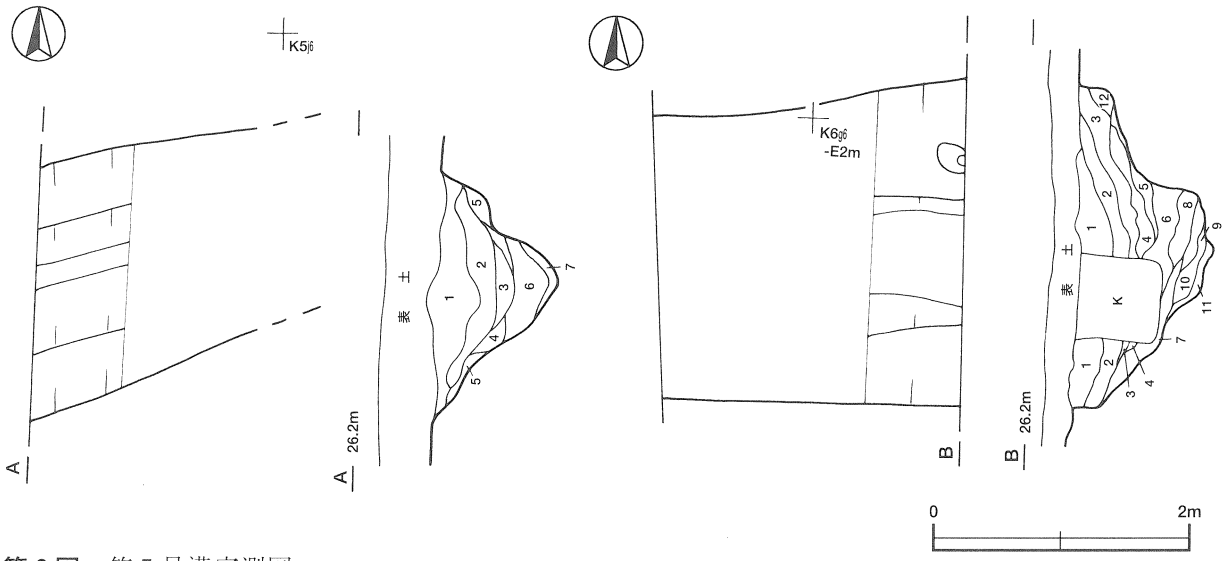
方向　確認できた西端（Ｋ５ｊ５区）からＮ－74°－Ｅの東北東に延びている。

土層解説　A

1	黒褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物・白色粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子中量，焼土粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
6	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
7	黒褐色	ロームブロック少量

土層解説　B

1	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
4	極暗褐色	ローム粒子・炭化物微量



第6図　第5号溝実測図

5　黒褐色　ローム粒子少量
6　暗褐色　ロームブロック少量
7　黒褐色　ローム粒子少量
8　暗褐色　ロームブロック少量
9　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
10　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
11　褐　色　ロームブロック少量
12　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

所見　本跡の性格は不明であるが，正倉域に関連する施設を区画する溝の一部と考えられる。

(2)　礎石建物跡

第1号礎石建物跡（第7・8図）

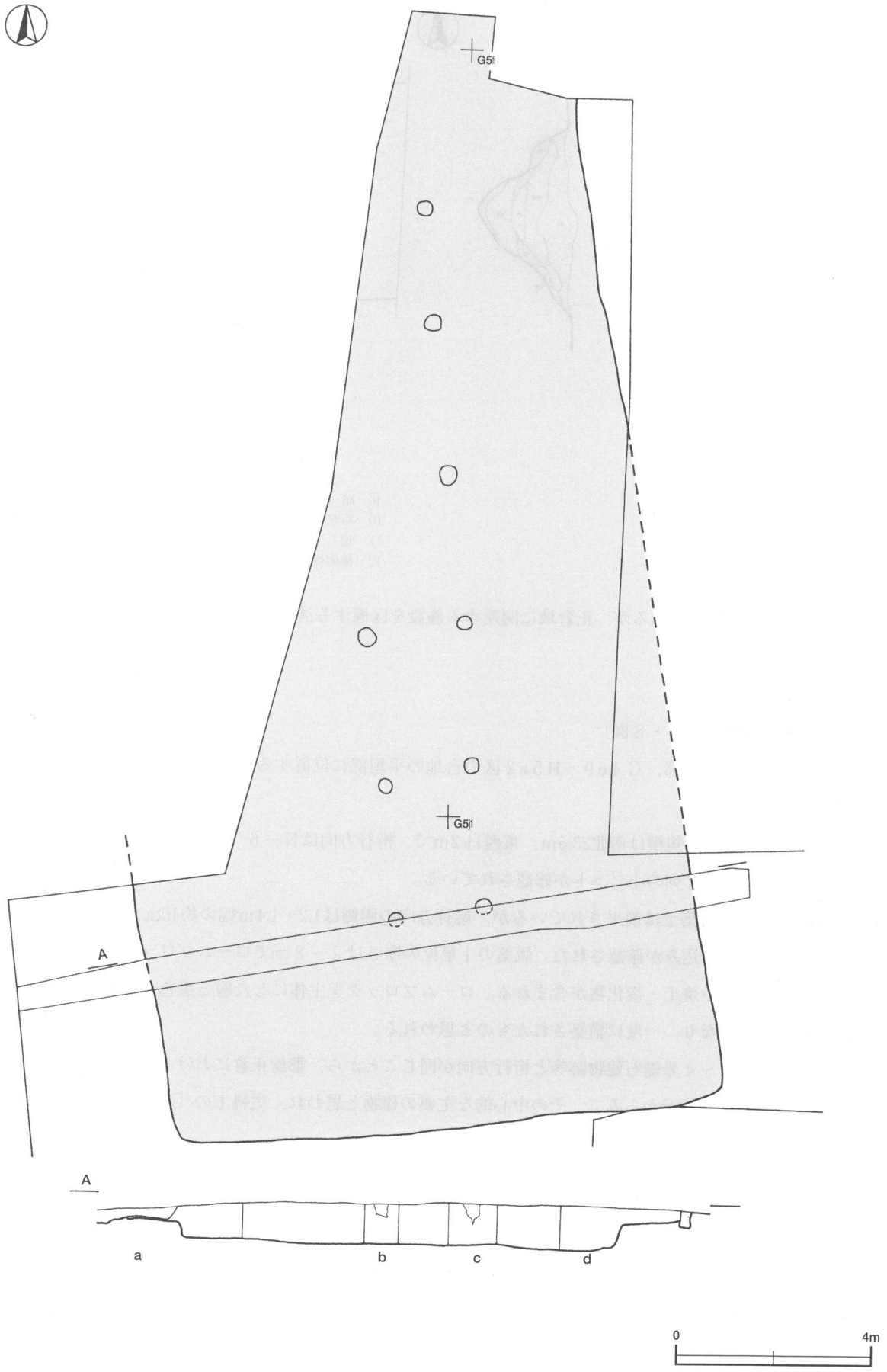
位置　調査区のほぼ中央部，G4e9～H5a2区の台地の平坦部に位置する。南10mには第5号礎石建物跡が存在する。

規模　確認できた基壇の規模は南北23.5m，東西11.2mで，桁行方向はN－6°－Wの長方形である。地業面中央には南北方向に並ぶ2列の小ピットが確認されている。

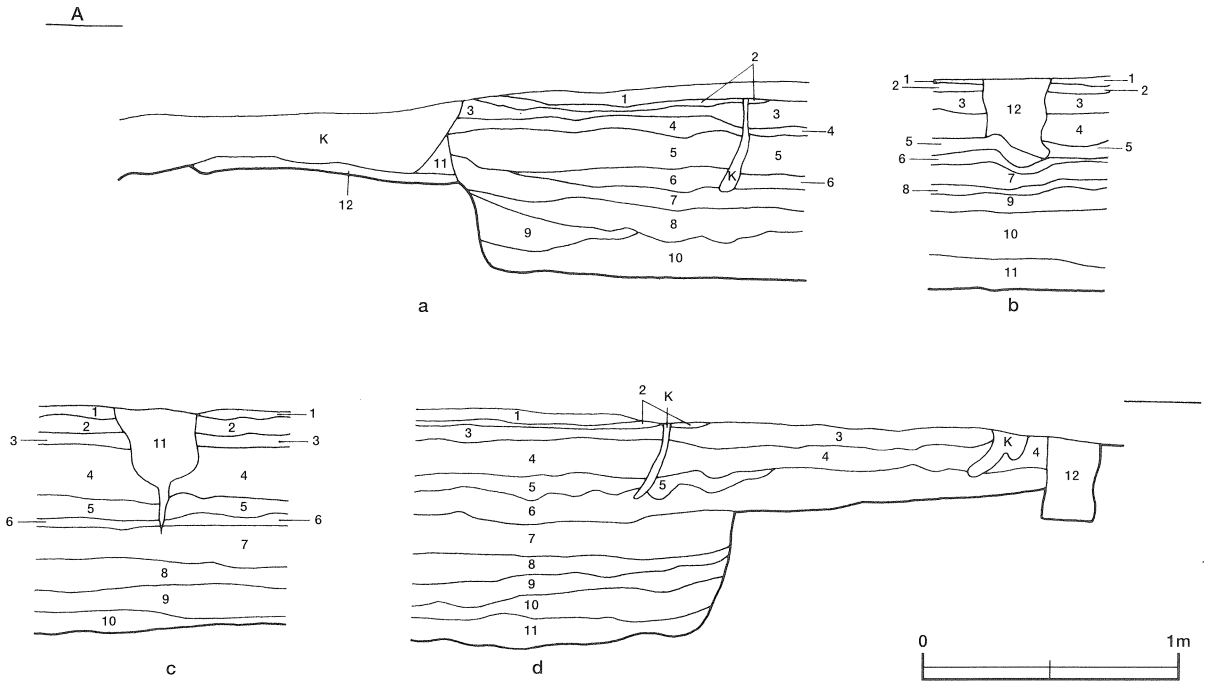
掘込地業　上部の基壇築土は削平されているが，梁行方向の両側は1.2～1.4m幅の約40cmの掘り込みと，中央部分の80～90cmの掘り込みが確認された。版築の1単位の厚さは2～8cmでロームブロック・黒色土ブロックを用い，その他砂粒や焼土・炭化物が含まれる。ロームブロックを主体にした層と黒色土ブロックを主体にした層がほぼ交互に重なり，一度に構築されたものと思われる。

所見　本跡は，第2～4号礎石建物跡等と桁行方向が同じことから，郡衙正倉における建物群を構成する倉庫で，規模や版築の構築状況からみて，その中心的な主要の建物と思われ，史料上の「長倉」・「法倉」に相当する特殊な建物と想定される。

版築土層解説　a
1　黒褐色　ロームブロック少量，焼土・炭化物微量，砂粒微量，しまり強
2　赤褐色　ロームブロック中量，焼土・炭化物微量，しまり強
3　黒褐色　ロームブロック中量，焼土・炭化物微量，粘性・しまり強
4　黒褐色　ロームブロック中量，黒色土ブロック少量，焼土・炭化物微量，しまり強
5　暗褐色　ロームブロック中量，黒色土ブロック・焼土・炭化物微量
6　黒褐色　黒色土ブロック・ロームブロック少量，焼土・炭化物微量
7　暗褐色　ロームブロック・黒色土ブロック少量，焼土・炭化物微量，しまり強
8　暗褐色　ロームブロック・黒色土ブロック中量，焼土・炭化物微量
9　黒褐色　黒色土ブロック・ロームブロック中量，焼土・炭化物微量
10　暗褐色　ロームブロック・黒色土ブロック中量，砂粒少量，焼土・炭化物微量，しまり強



第 7 図　第 1 号礎石建物跡確認状況図(1)



第8図　第1号礎石建物跡確認状況図(2)

11　暗褐色　ロームブロック・黒色土ブロック中量，焼土・炭化物微量
12　黒褐色　ロームブロック・黒色土ブロック中量，焼土微量，しまり強

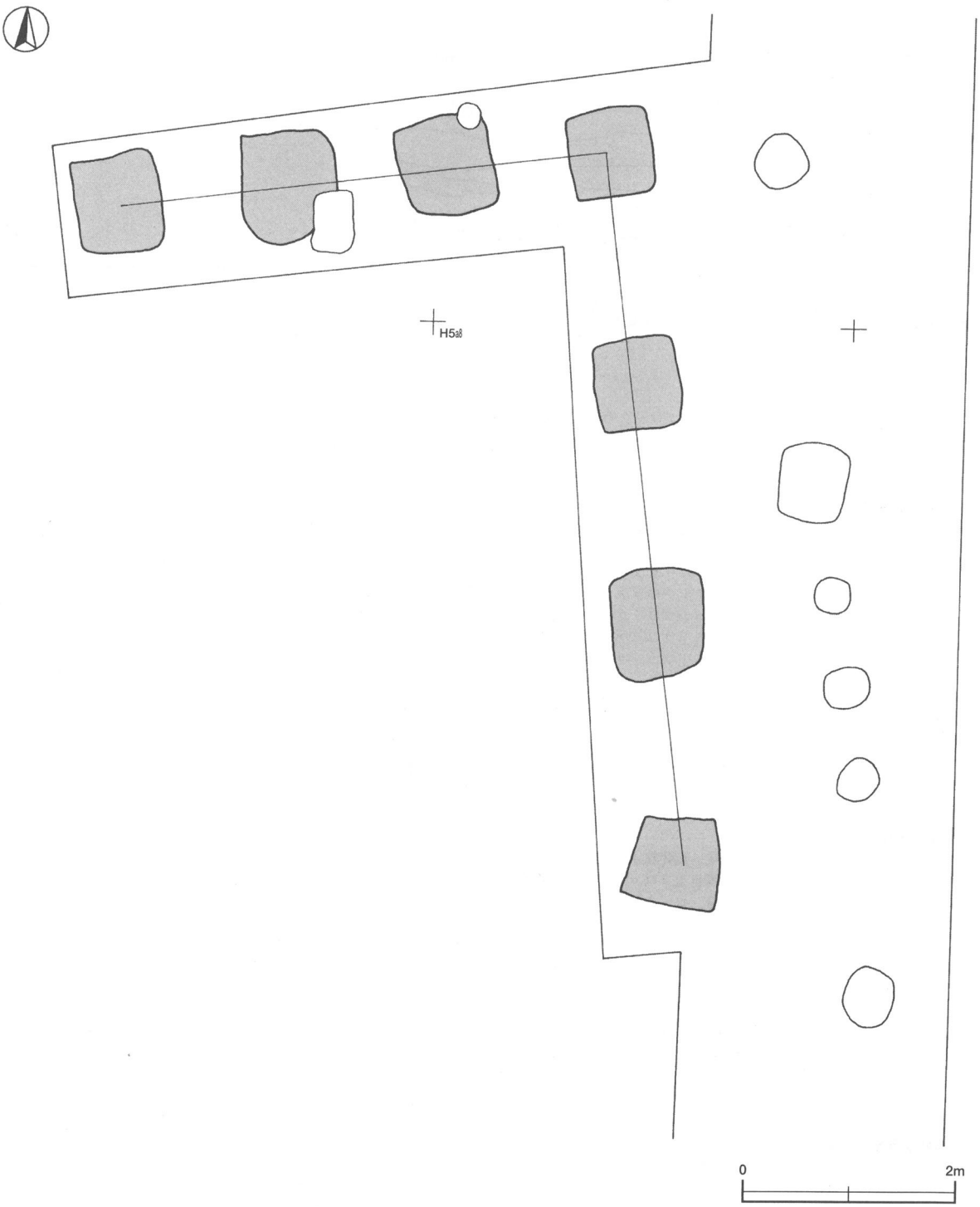
版築土層解説　b
1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土・炭化物・砂粒微量，しまり強
2　黒　　色　砂粒多量，焼土・小礫少量，しまり強
3　黒褐色　黒色土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土・炭化物・白色粒子・砂粒・小礫微量，しまり強
4　黒褐色　ロームブロック・黒色土ブロック・白色粒子少量，焼土・炭化物微量，しまり強
5　暗褐色　ロームブロック・黒色土ブロック少量，焼土・炭化物・白色粒子・砂粒微量，しまり強
6　黒褐色　ロームブロック・黒色土ブロック少量，焼土・炭化物・白色粒子微量
7　暗褐色　ロームブロック・黒色土ブロック少量，焼土・炭化物微量，しまり強
8　暗褐色　ロームブロック・黒色土ブロック少量，焼土・炭化物微量
9　黒褐色　ロームブロック・黒色土ブロック少量，焼土・炭化物微量
10　暗褐色　ロームブロック中量，黒色土ブロック少量，焼土・炭化物微量，しまり強
11　暗褐色　ロームブロック中量，黒色土ブロック少量，焼土・炭化物・白色粒子・砂粒微量，しまり強
12　黒褐色　ロームブロック・黒色土ブロック・白色粒子少量，焼土・炭化物・砂粒微量（ピット）

版築土層解説　c
1　黒褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量，しまり強
2　黒褐色　ロームブロック・黒色土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物・白色粒子・山砂・小礫微量，しまり強
3　黒　　色　黒色土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・白色粒子・砂粒微量，しまり強
4　暗褐色　ロームブロック・黒色土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物・白色粒子微量，しまり強
5　暗褐色　ロームブロック中量，黒色土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物・白色粒子微量
6　黒褐色　ロームブロック中量，黒色土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒褐色　ロームブロック少量，黒色土ブロック・焼土ブロック・炭化物微量
8　黒褐色　ロームブロック中量，黒色土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
9　黒褐色　ロームブロック中量，黒色土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
10　暗褐色　ロームブロック・砂粒・粘土ブロック中量，黒色土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子・小礫微量
11　黒褐色　ロームブロック・黒色土ブロック・粘土ブロック中量，白色粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化物・小礫微量（ピット）

版築土層解説　d
1　黒褐色　ロームブロック・黒色土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量，しまり強
2　黒褐色　黒色土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・山砂・小礫微量，しまり強
3　黒褐色　黒色土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・白色粒子・小礫微量，しまり強
4　黒褐色　ロームブロック・黒色土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物・白色粒子微量，しまり強
5　黒褐色　ロームブロック・黒色土ブロック少量，焼土粒子・炭化物・白色粒子微量，しまり強

6　黒 褐 色　ロームブロック中量，黒色土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量，しまり強
7　暗 褐 色　ロームブロック中量，黒色土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
8　黒 褐 色　ロームブロック中量，黒色土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量，しまり強
9　黒 褐 色　ロームブロック中量，黒色土ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
10　黒 褐 色　ロームブロック・黒色土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物・白色粒子微量
11　暗 褐 色　ロームブロック中量，黒色土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒・礫微量
12　黒 褐 色　ロームブロック・粘土ブロック少量，黒色土ブロック・焼土ブロック・炭化物微量，しまり強（ピット）

第２号礎石建物跡（第９図）



第９図　第２号礎石建物跡確認状況図

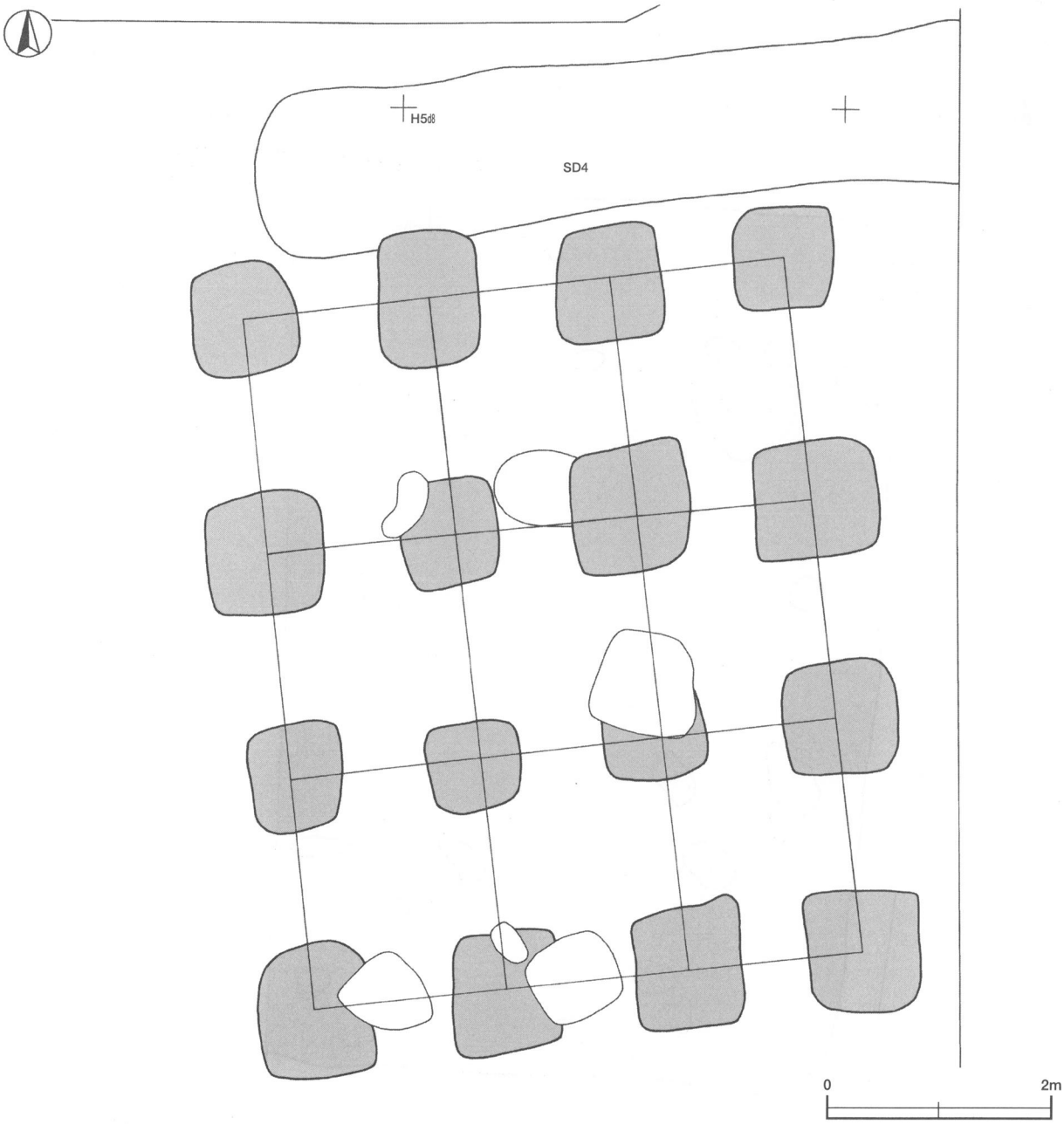
位置　調査区のほぼ中央部，Ｇ５ｊ７～Ｈ５ｃ８区の台地の平坦部に位置する。南7.5ｍに第３号礎石建物跡，同21ｍには第４号礎石建物跡が桁行方向をほぼ同じくして並んで存在し，西19ｍには第１号礎石建物跡が位置する。

規模　南西部が検出されていないが，桁行３間，梁行３間の総柱構造で，桁行方向はＮ－７°－Ｗの南北棟である。確認された規模は桁行長5.9ｍ，梁行長4.5ｍを測り，柱間は桁行2.4～2.3ｍ，梁行1.5～1.6ｍである。

掘込地業　長径88～106㎝，短径80～88㎝の長方形の掘り方に，白色粘土を詰め込んで構築した坪地業である。

所見　本跡は，第３・４号礎石建物跡と同一の桁行方向を示し，側柱列も一直線上に並ぶことから，郡衙正倉の建物群を構成する一般的な倉庫であると想定される。

第３号礎石建物跡（第10図）



第10図　第３号礎石建物跡確認状況図

位置　調査区のほぼ中央部，Ｈ５ｄ７～Ｈ５ｆ９区の台地の平坦部に位置する。北7.5ｍに第２号礎石建物跡，南7.3ｍには第４号礎石建物跡が桁行方向をほぼ同じくして位置する。

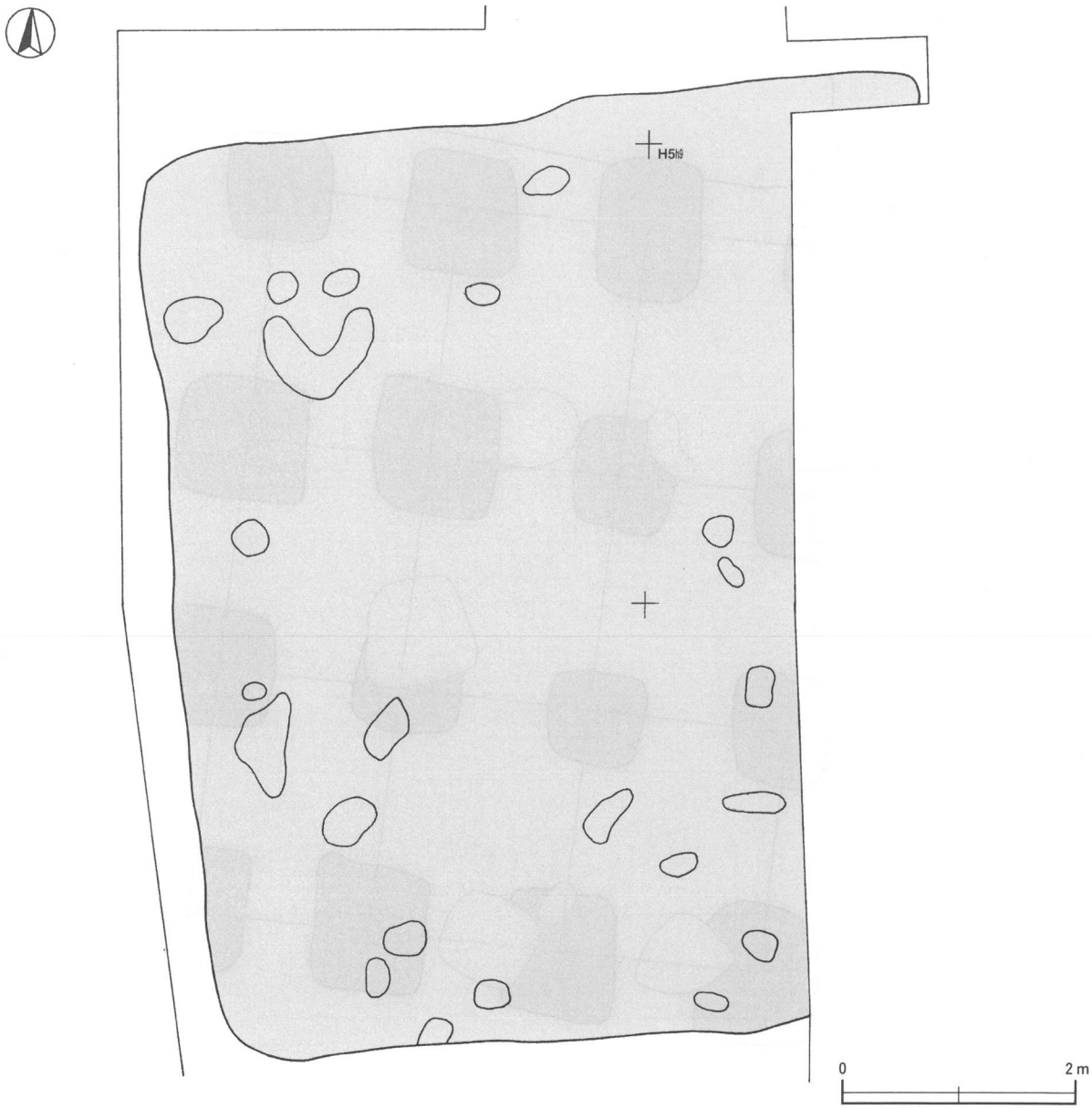
規模　桁行３間，梁行３間の総柱構造で，桁行方向はＮ－８°－Ｗの南北棟である。確認された規模は桁行長4.9ｍ，梁行長6.5ｍを測り，柱間は桁行1.9～2.3ｍ，梁行1.6～1.7ｍである。

掘込地業　長径84～124㎝，短径80～82㎝の長方形の掘り方に，白色粘土を詰め込んで構築した坪地業である。

所見　本跡は，第２・４号礎石建物跡と同一の桁行方向を示し，側柱列も一直線上に並ぶことから，郡衙正倉の建物群を構成する一般的な倉庫であると想定される。

第４号礎石建物跡（第11図）

位置　調査区のほぼ中央部，Ｈ５ｈ７～Ｈ５ｉ９区の台地の平坦部に位置する。北８ｍには第３号礎石建物跡，南20ｍには区画溝の南辺である第１号溝が存在する。



第11図　第４号礎石建物跡確認状況図

規模　確認できた基壇の規模は南北7.9m，東西6.9mで，桁行方向はN－7°－Wの長方形である。

掘込地業　確認された地業面には小ピットがあるが，性格については現在のところ不明である。後世の耕作などにより基壇の上部は削平されているが，掘込地業による版築構造である。

所見　本跡は，第２・３号礎石建物跡と同一の桁行方向を示し，側柱列も一直線上に並ぶことから，郡衙正倉の建物群を構成する一般的な倉庫で，校倉に相当するものと想定される。

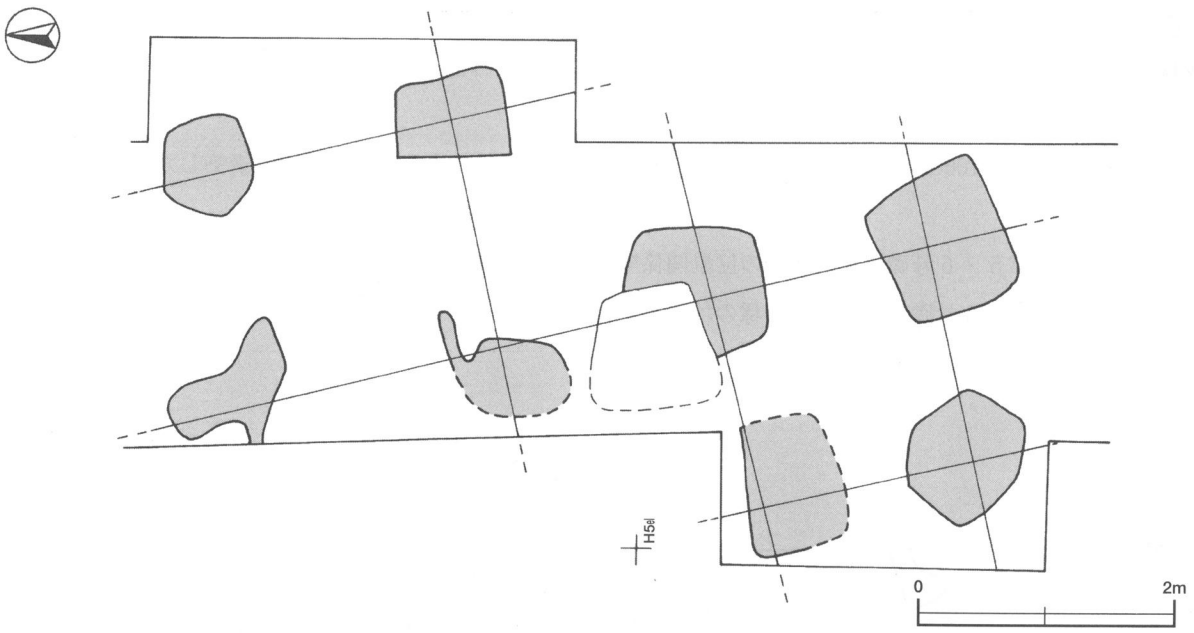
第５号礎石建物跡（第12図）

位置　調査区のほぼ中央部，Ｈ５ｄ１～Ｈ５ｅ１区の台地の平坦部に位置する。北10mに第１号礎石建物跡が，南4.8mには第６号礎石建物跡がそれぞれ位置する。

規模　桁行5.6m，東西は未確認であるが梁行は3.3mを確認し，桁行３間，梁行２間を確認したが，３間×３間の総柱構造で，桁行方向をN－7°－Wとする南北棟である。柱間は桁行約1.9m，梁行1.7～1.8mである。

掘込地業　長径79～110cm，短径70～95cmの長方形の掘り方に，白色粘土を詰め込んで構築した坪地業である。

所見　本跡は，第１号礎石建物跡との位置関係や桁行方向などから郡衙正倉の建物群の一部と考えられる。耕作による撹乱や調査区の制限から不明な点が多いが，第２・３号礎石建物跡と同様の坪地業による礎石建物であり，一般的な倉庫と考えられる。



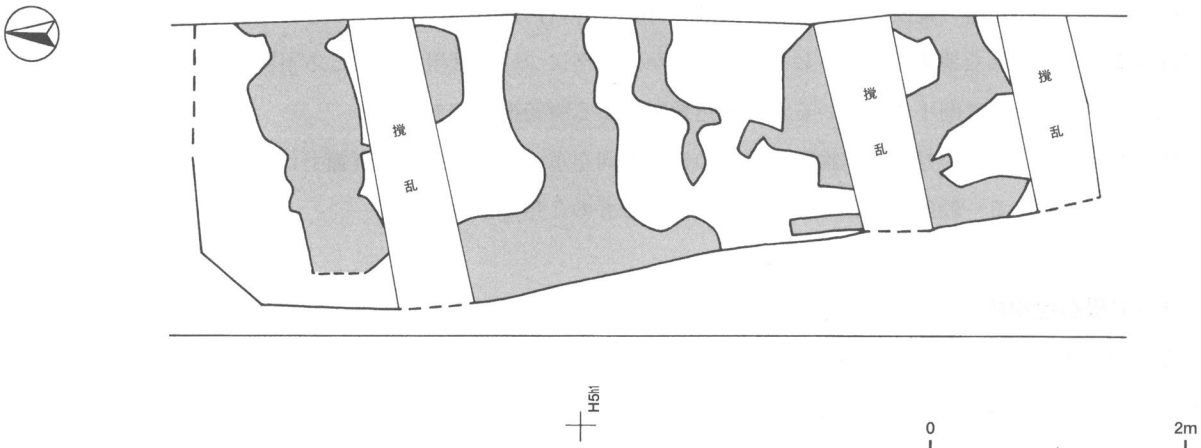
第12図　第５号礎石建物跡確認状況図

第６号礎石建物跡（第13図）

位置　調査区のほぼ中央部，Ｈ５ｇ１～Ｈ５ｉ１区の台地の平坦部に位置する。北６mに第５号礎石建物跡，南３mには第７号礎石建物跡が存在する。

規模　全体を検出していないが，南北７m，東西2.3m以上で，桁行方向はN－7°－Wの地業面を確認した。

掘込地業　掘込地業による構造であるが，耕作による撹乱が激しい。



第13図　第６号礎石建物跡確認状況図

所見　本跡は，第１・５号礎石建物跡と並ぶ正方形の平面形の倉庫と考えられる。確認面は撹乱が激しくまとまって検出された白色粘土は，版築の一部と考えられる。

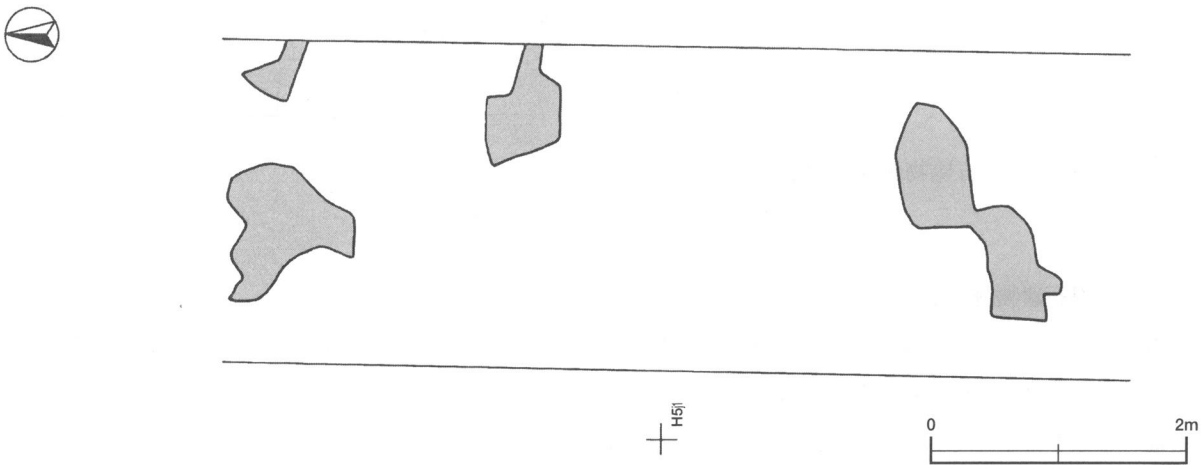
第７号礎石建物跡（第14図）

位置　調査区のほぼ中央部，Ｈ５ｉ１～Ｈ５ｊ１区の台地の平坦部に位置する。

規模　15トレンチ内に，耕作による撹乱を激しくうけているが，白色粘土による坪地業と，粘土が散乱している範囲を6.6ｍにわたり確認した。

掘込地業　長径88～106㎝，短径80～88㎝の長方形の掘り方に，白色粘土を詰め込んで構築した，坪地業である。

所見　本跡は，第５・６号礎石建物跡との位置関係等から郡衙正倉の建物郡の一部と考えられる。全体の様相は不明ながら第２・３号礎石建物跡と同様の坪地業による礎石建物であり，一般的な倉庫と考えられる。



第14図　第７号礎石建物跡確認状況図

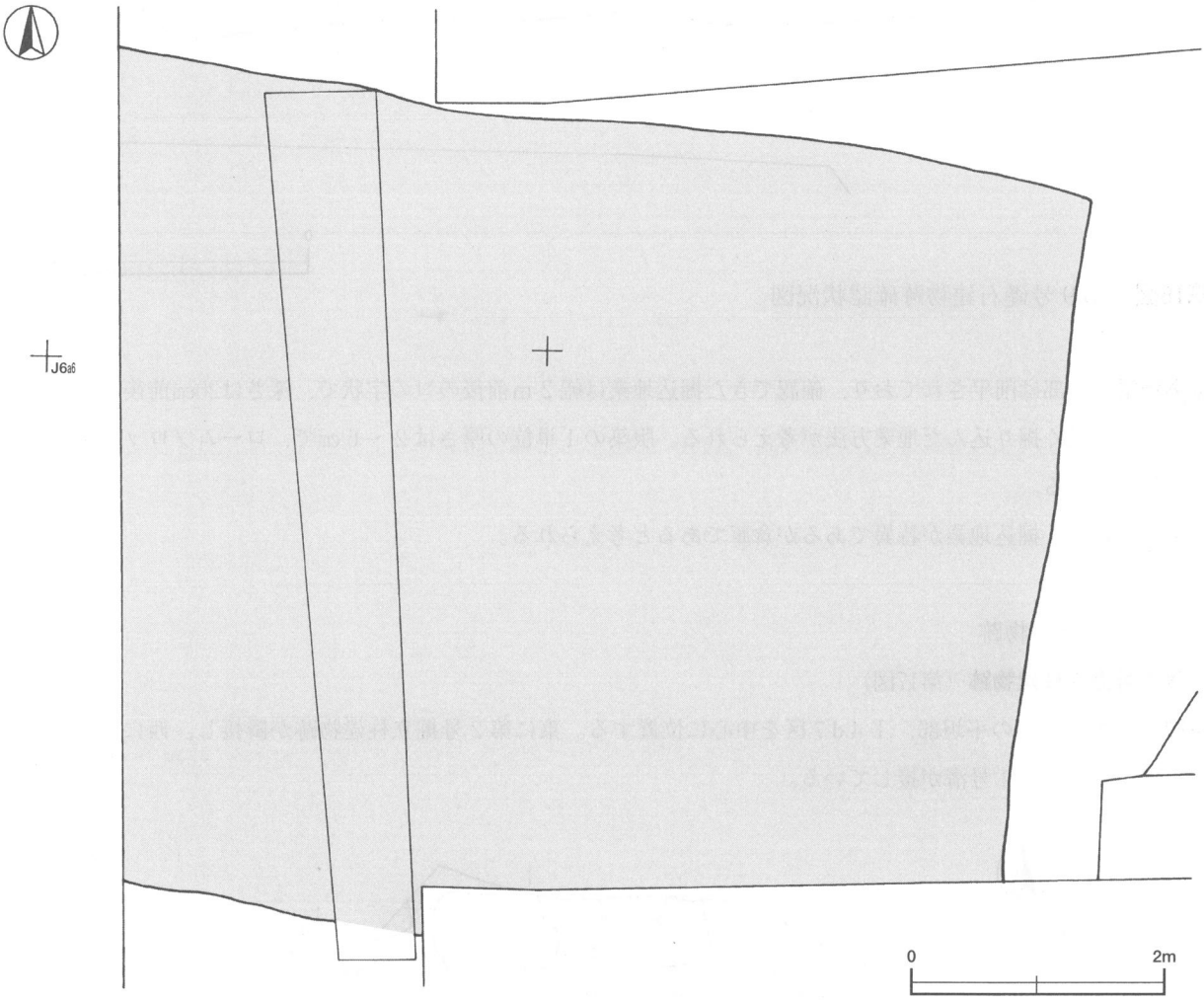
第８号礎石建物跡（第15図）

位置　調査区の南東部，Ｉ６ｊ６～Ｊ６ｂ７区の台地の平坦部に位置する。第２号溝の東辺に隣接し，北21ｍに第１号溝が存在する。

規模　確認できた規模は南北6.5ｍ，東西7.7ｍ以上で，桁行方向をＮ－81°－Ｗとする掘込地業による建物跡である。平面形は西部が検出されていないが，長方形と考えられる。

掘込地業　上部は削平されており，掘方地業の深さは耕作による撹乱部分で観察したところ，確認面から20㎝前後である。

所見　本跡は，掘込地業がやや浅いが倉庫と考えられる。

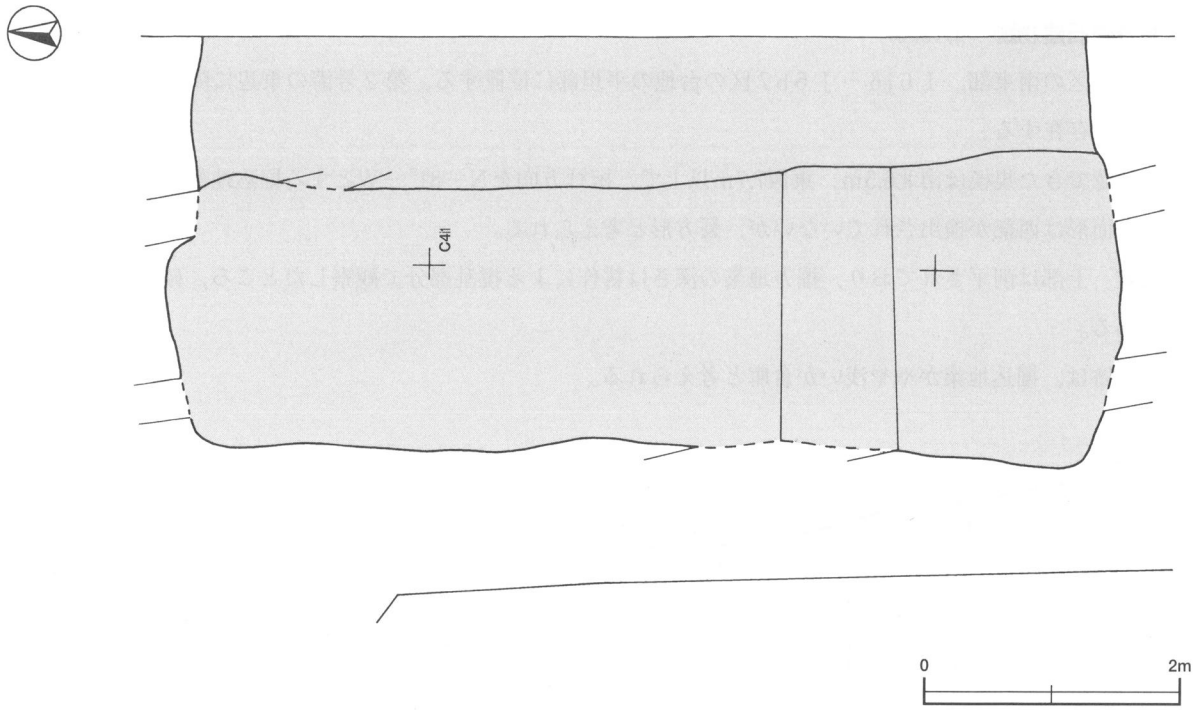


第15図　第８号礎石建物跡確認状況図

第９号礎石建物跡（第16図）

位置　調査区北部（金田西遺跡）のＣ３ｈ０～Ｃ４ｊ１区の台地の平坦部に位置する。北15ｍには第１号溝の北辺が位置する。

規模　確認できた基壇の規模は南北7.5ｍ，東西3.3ｍ以上で，桁行方向はＮ－０°－Ｗの掘込地業による建物跡である。平面形は東部が検出されていないが，長方形と考えられる。



第16図　第９号礎石建物跡確認状況図

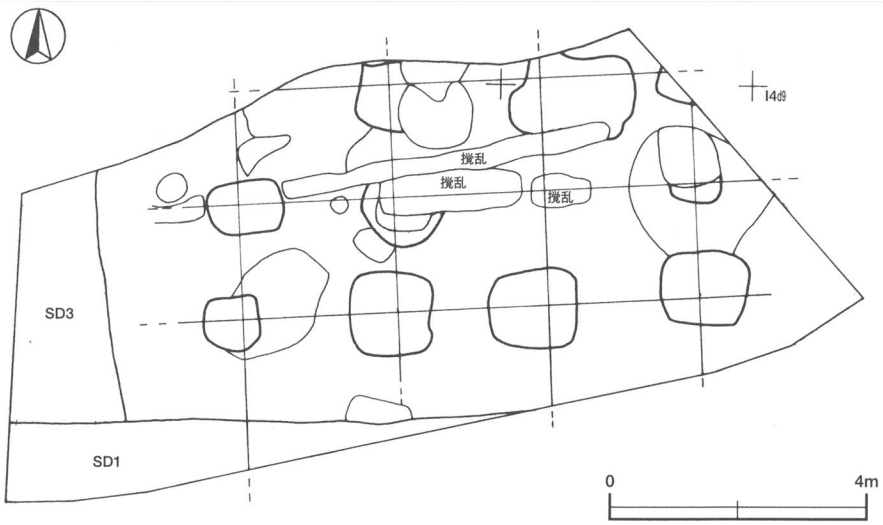
掘込地業　上部は削平されており，確認できた掘込地業は幅２ｍ前後のコの字状で，深さは20㎝前後であり，側柱部分を深く掘り込んだ地業方法が考えられる。版築の１単位の厚さは２～６㎝で，ロームブロックを用いて構築している。

所見　本跡は，掘込地業が特異であるが倉庫であると考えられる。

(3)　掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡（第17図）

位置　調査区南部の平坦部，Ｉ４ｄ７区を中心に位置する。東に第２号掘立柱建物跡が隣接し，西に第３号溝が，南１ｍには第１号溝が接している。



第17図　第１号掘立柱建物跡確認状況図

重複関係　複数の土坑と重複しているが，未調査のため新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行３間以上，梁行２間以上の総柱建物跡で，桁行方向はＮ－86°－Ｗの東西棟である。確認された規模は桁行長7.5m，梁行長3.6mを測り，柱間は桁行2.4m前後，梁行1.8m前後である。南部は第１号溝に接近し，他の三方は調査区外のため全体の様相は不明である。

所見　本跡は，第１号溝に近接して位置し，第１号礎石建物跡を中心とする掘込地業の見られる倉庫群よりは古い時期の倉庫と考えられる。

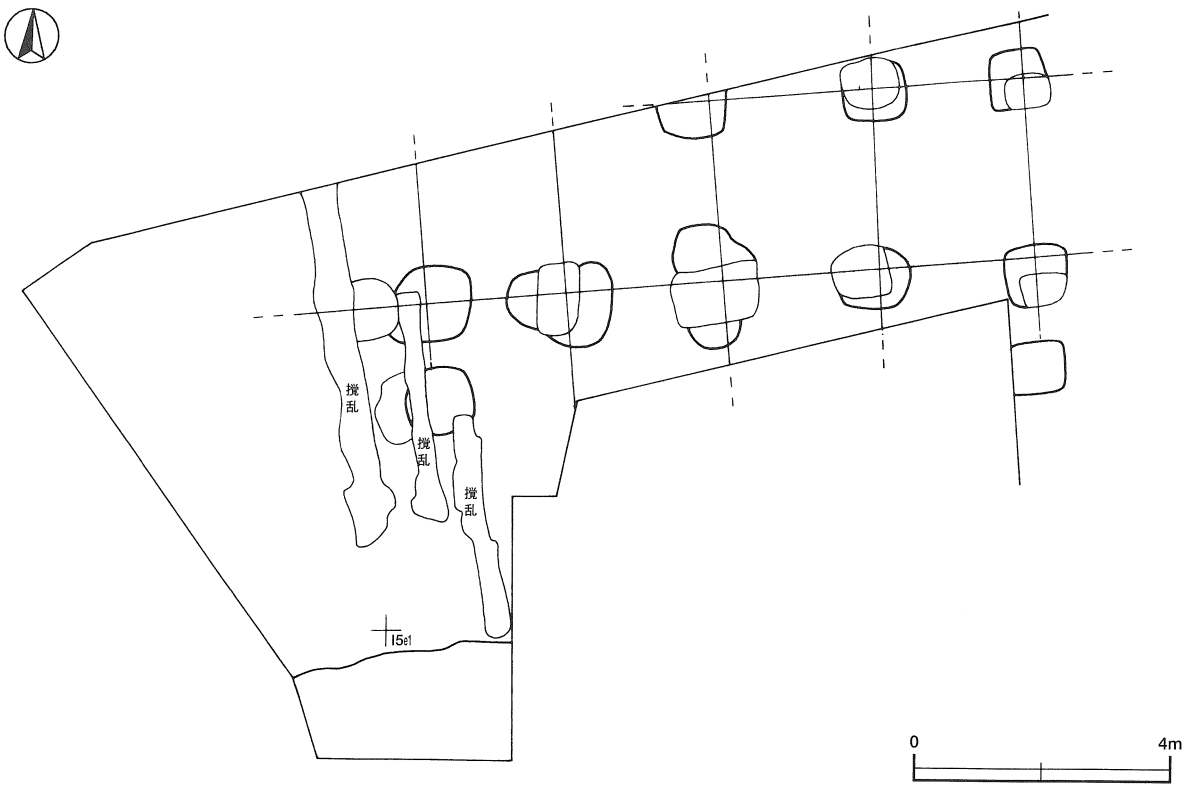
第２号掘立柱建物跡（第18図）

位置　調査区南部の平坦部，Ｉ５ｃ１区を中心に位置する。西に前述した第１号掘立柱建物跡が，北には第７号礎石建物跡が，南４ｍには第１号溝の南辺が位置している。

重複関係　西部は複数の土坑と重複し，その一部は掘立柱建物跡の掘り方になる可能性もあるが，確認面での調査のため詳細は不明である。

規模　桁行４間以上，梁行２間以上の総柱建物跡と想定され，桁行方向Ｎ－86°－Ｗの東西棟であり，第１号掘立柱建物跡とほぼ同じ軸線をもつ。確認された規模は，桁行9.6m，梁行3.1mを測り，柱間は桁行2.4m前後，梁行3.0m前後である。東の梁行柱列と南桁行柱列の一部は確認できたが，北部は調査区外のため不明である。東梁行柱列の南1.5mに柱筋の通る柱穴と思われる掘り方が確認され，本跡に付随するものとも考えられたが，その南にも掘り方があり，別の建物になる可能性がある。

所見　本跡は，第１号掘立柱建物跡と同様に第１号溝に近接して位置しているため，第１号礎石建物跡を中心とする掘込地業の見られる倉庫群よりは古い時期の倉庫と考えられる。



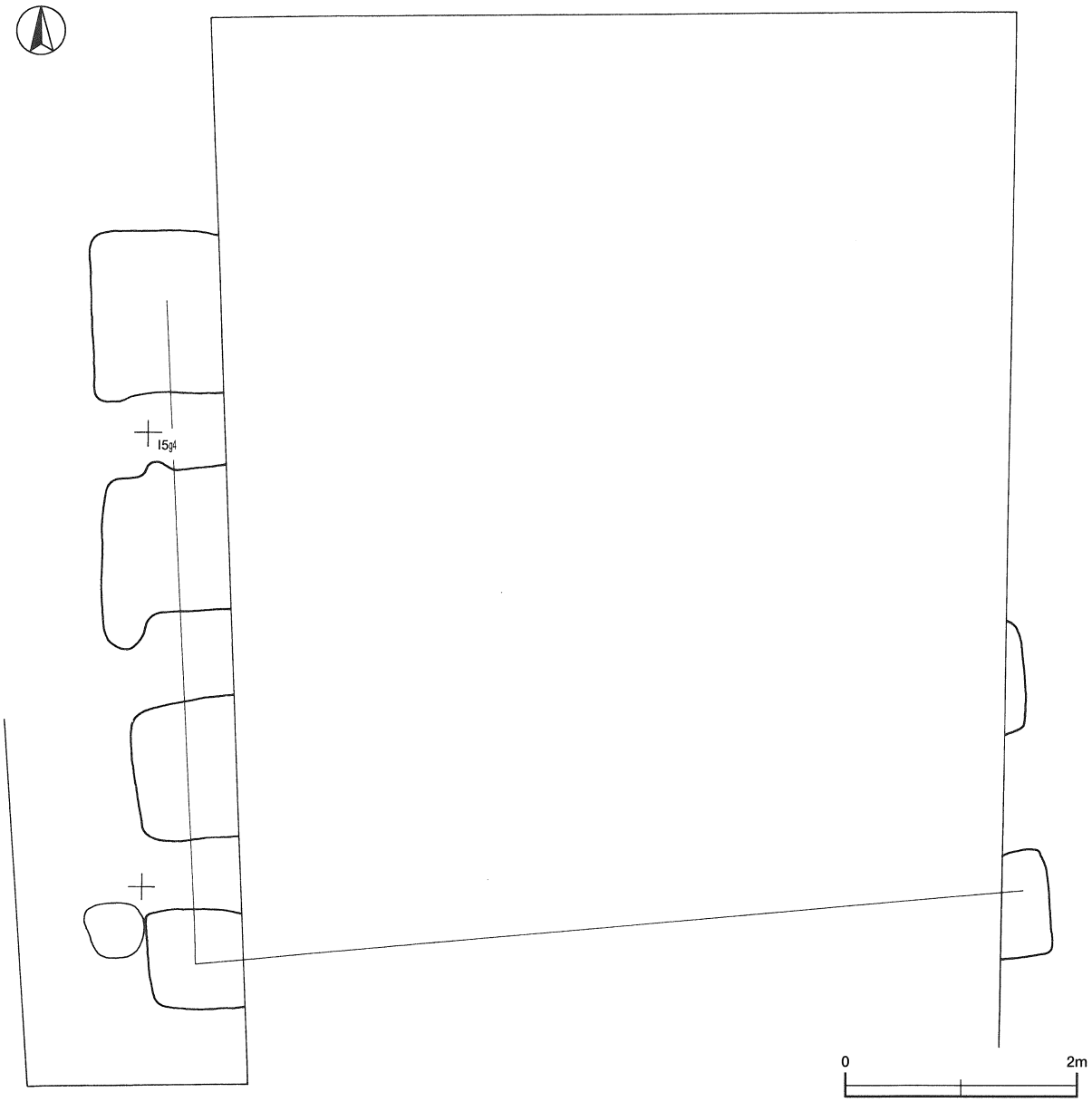
第18図　第２号掘立柱建物跡確認状況図

第３号掘立柱建物跡（第19図）

位置　調査区南部の平坦部，Ｉ５ｆ４区に位置する。北4.5ｍに第１号溝の南辺が位置し，北東部は門跡部となる。第１号溝を挟んだ北８ｍには第２号掘立柱建物跡の東妻柱列が柱筋を通して位置する。

規模　梁行３間であるが，桁行はトレンチ間の調査区外のため不明である。桁行方向Ｎ－86°－Ｅの東西棟で，確認できたのは桁行7.0ｍ，梁行5.7ｍで，梁行の柱間は2.1ｍ前後である。東西の梁行柱列のみを確認したが，総柱建物跡の可能性が考えられる。

所見　本跡は，第１号溝の区画の外にあり，第１号礎石建物跡を中心とする倉庫群や第１・２号掘立柱建物跡とは性格を異にする建物と考えられるが，明確ではない。



第19図　第３号掘立柱建物跡確認状況図

(4)　その他の遺構

第1号埋甕（第20・21図）

位置　調査区中央部の平坦部，６トレンチの東部Ｈ３ｅ０区に位置する。

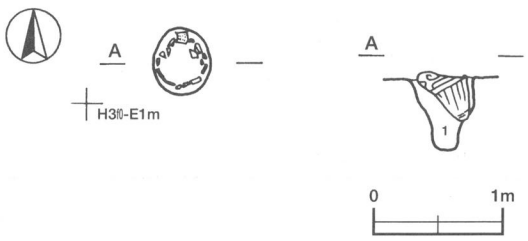
規模と形状　径約60cm，深さ約55cmの円形で，掘り込みの中に深鉢がやや斜位に埋め込まれている。

覆土　１層からなり，埋土と考えられる。

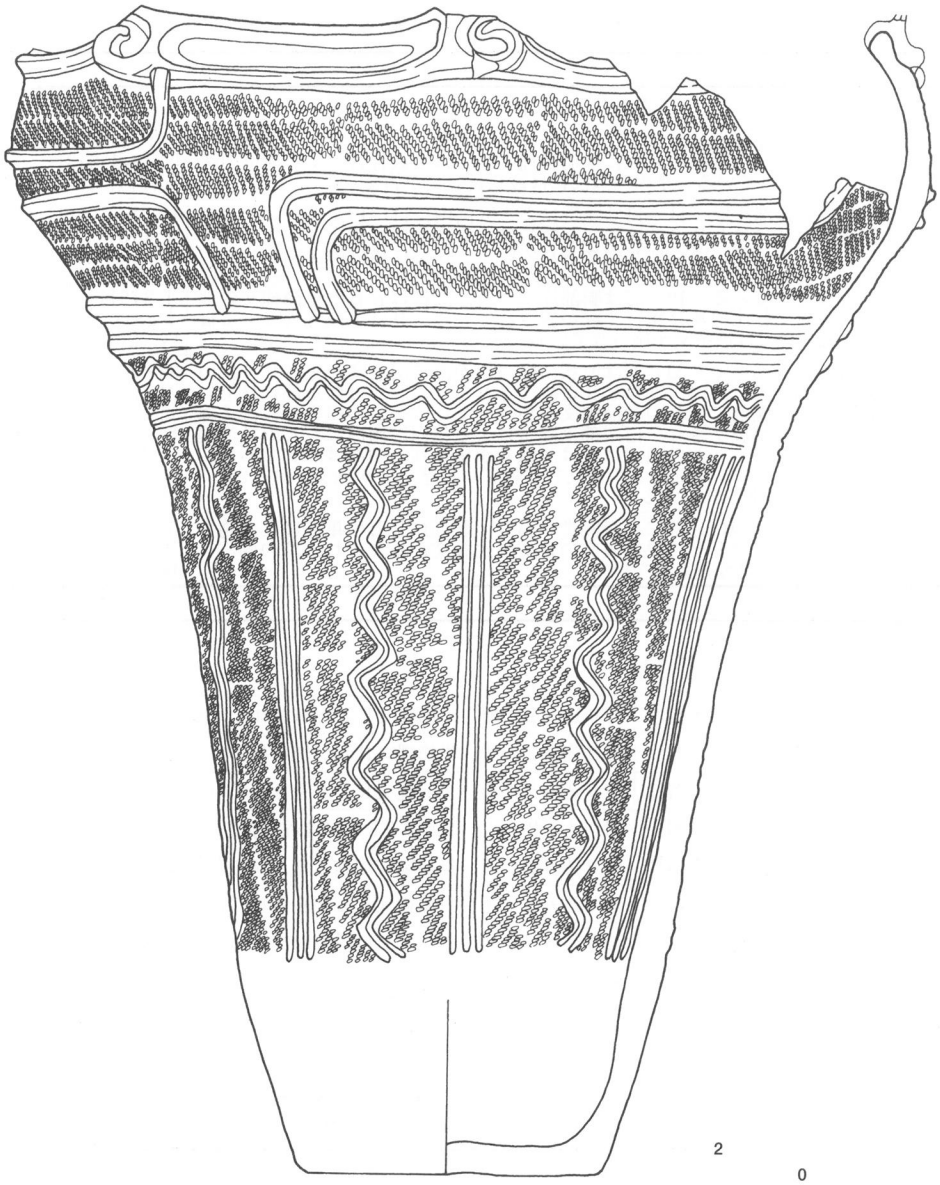
土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土・炭化物微量

遺物出土状況　深鉢は，円形の掘り込みの中央部に斜位で埋納されている。

所見　本跡は出土遺物から縄文時代中期（加曽利Ｅ Ⅰ式）の埋甕である。



第20図　第１号埋甕実測図



第21図　第１号埋甕出土遺物実測図

第１号埋甕出土遺物観察表（第21図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色　調	出土位置	備考
2	縄文土器	深鉢	36.6	(46.4)	12.0	口縁部文様帯はＲＬの地文に隆帯が貼付され，胴部はＲＬの地文に沈線文が施されている。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	Ｈ３e0区	70%

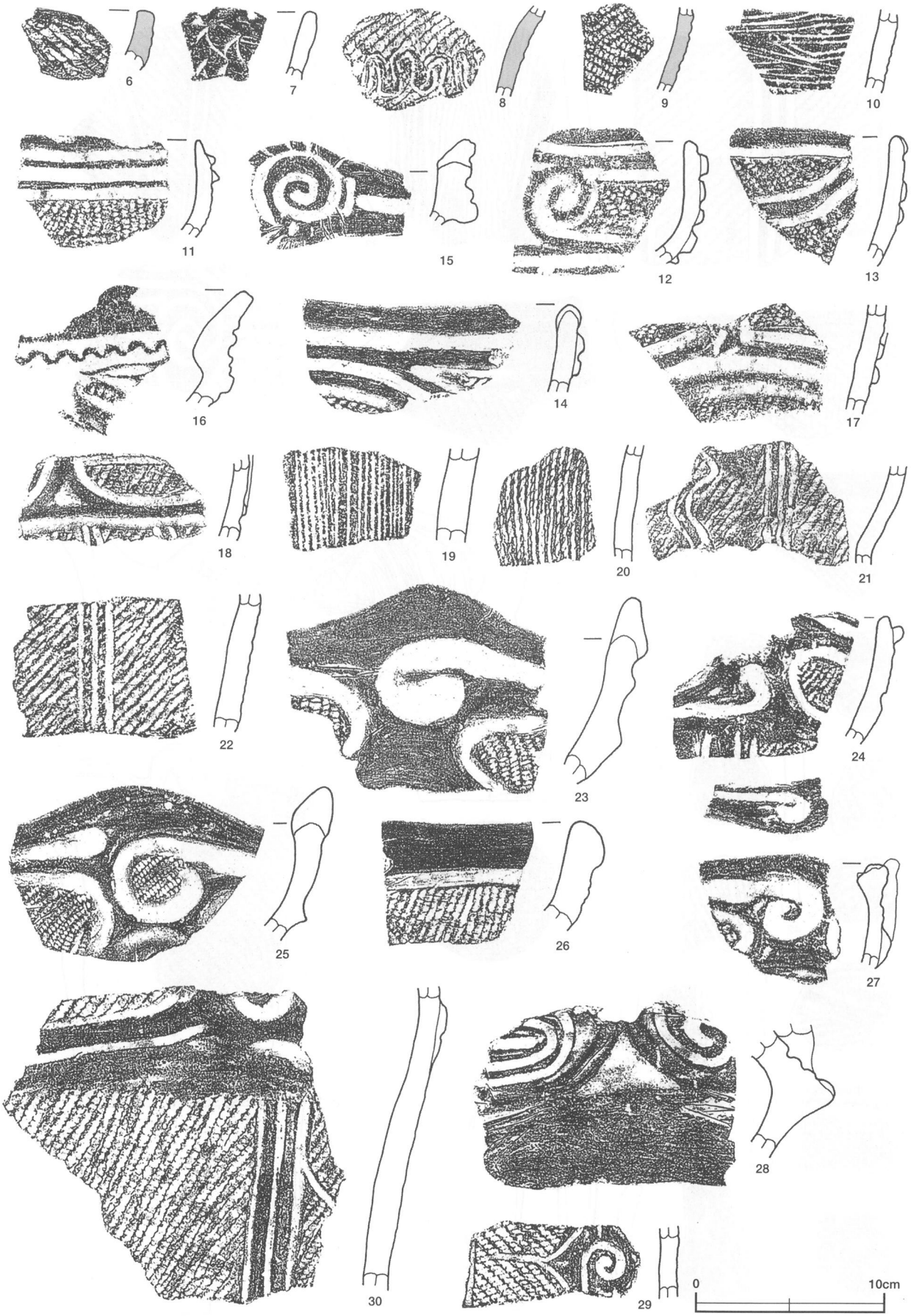
2　遺構外出土遺物

遺構外出土遺物観察表（第22～24図）

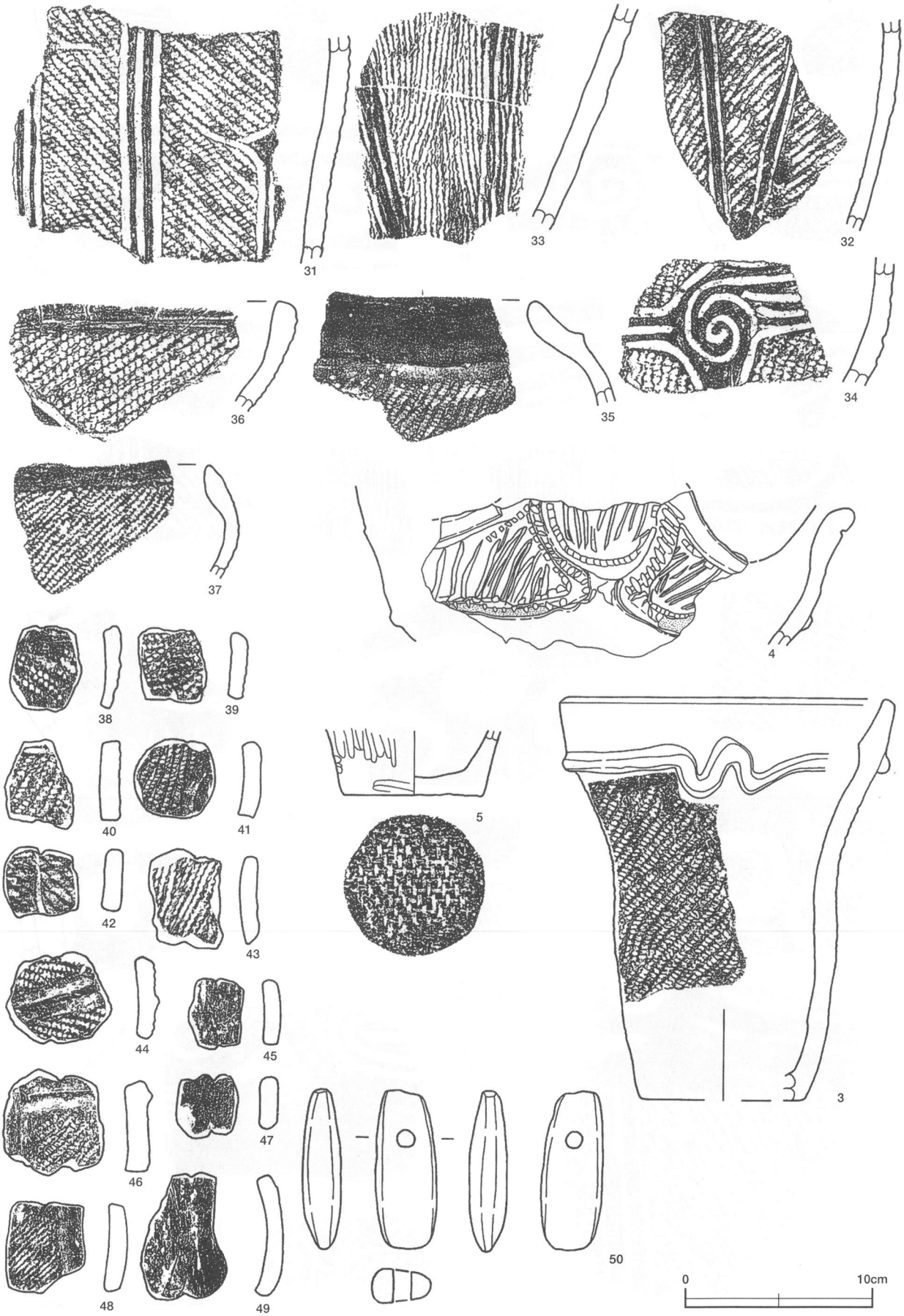
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色　調	出土位置	備考
3	縄文土器	深鉢	[17.0]	21.9	[8.9]	口辺部下端に蛇行する隆帯が巡り，胴部はＲＬの単節縄文が施文されている。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	明赤褐	Ｉ５c4区	40%
4	縄文土器	深鉢	[27.0]	(8.5)	－	口縁部文様帯は刻みのある隆帯によって区画され，区画内には沈線と押し引き文が施文されている。	長石・石英・雲母	普通	褐	Ｋ５a0区	10%
5	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	7.5	胴部はヘラ磨き。底部に網代痕。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	Ｈ５a6区	5%

番号	時　期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
6～10	縄文時代前期	６，８には無節縄文Ｌが施され，８にはやや変形したコンパス文が施されている。９，10は胴部片で９には羽状縄文，10は半截竹管による横位の沈線文が施文されている。７の口辺部には波状貝殻文が施文されている。	6-Ｈ５c6区，7-Ｉ６e6区，8-Ｊ６j3区，9-Ｈ５c6区，10-Ｇ４f2区	
11～22	縄文時代中期	11～16は口縁部片で，11～14は隆帯による区画内に11，13，14にはＲＬの単節縄文，12にはＬＲの単節縄文と隆帯による渦巻様が施文されている。15は波状の頂頭部に渦巻文が施文されている。16には横位の沈線間に交互刺突文が施文されている。17，18の口辺部文様帯は隆帯によって区画され，ＲＬが施されている。19～22は胴部片で，21，22にはＲＬの単節縄文の地文に縦位の平行沈線及び蛇行沈線が施されている。９は半截竹管による縦位の沈線，10には撚糸文が施されている。	11・15-Ｊ４f1区，12-Ｊ４f3区，13-Ｉ５h6区，14-Ｈ５c6区，16-Ｊ３j8区，17・18-Ｊ３f9区，19・22-Ｈ５g8区，20-Ｊ５a6区，21-Ｊ３f9区	
23～34	縄文時代中期	23～27は口縁部片で，23～25は波状口縁の頂頭部に渦巻文が施され，楕円区画内に23はＲＬ，24，25はＬＲが施文されている。26は口辺部に横位の沈線が巡り，胴部にＲＬの単節縄文が施されている。27の口唇部には沈線による渦巻文が施文され，口辺部は隆帯による楕円区画内にＬＲの単節縄文が施されている。28の口辺部には沈線文が施され，頸部は無文である。29～34は胴部片で，単節縄文の地文に沈線による懸垂文が施文され，29，34は渦巻文が施文されている。	23・26・27-Ｊ４j1区，24-Ｇ５区，25-Ｃ３j1区，29・31-Ｊ３h9区，28-Ｈ５e6区，30-Ｈ５a1区，32-Ｈ５h8区，33-Ｉ５h6区，34-Ｈ５f8区	29，31同一個体か
35～37	縄文時代中期	口縁部片で，35の口辺部には微隆帯が巡り，胴部にＲＬの単節縄文が施されている。36にはＬＲの単節縄文の地文に沈線文が施文され，37の胴部にはＬＲの単節縄文が施されている。	35-Ｄ３b1区，36-Ｈ５h8区，37-Ｈ５d6区	

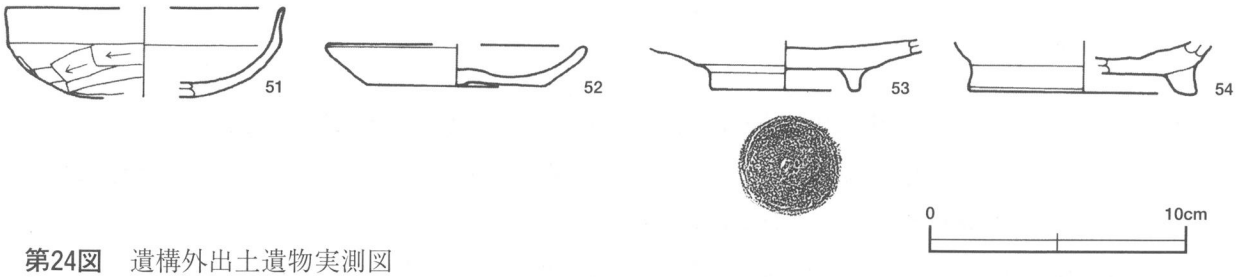
番号	器　種	計測値				材質	特　　徴	出土位置	備考
		長さ(㎝)	幅(㎝)	厚さ(㎝)	重量(g)				
38	土器片錘	4.6	3.9	0.9	19.6	土器片	切り込み２か所。単節縄文ＲＬが施されている胴部片。	Ｃ３j1区	
39	土器片錘	4.0	3.8	1.0	18.6	土器片	切り込み２か所。単節縄文ＲＬが施されている胴部片。	Ｊ４a4区	
40	土器片錘	4.8	3.7	1.1	24.3	土器片	切り込み２か所。単節縄文ＲＬが施されている胴部片。	Ｋ５c1区	
41	土器片錘	4.3	4.3	1.1	25.3	土器片	切り込み２か所。単節縄文ＲＬに沈線が施されている胴部片。	Ｉ５a6区	
42	土器片錘	3.8	4.1	1.2	24.0	土器片	切り込み２か所。無節縄文が施され，縦方向に溝。	Ｈ５e6区	
43	土器片錘	5.3	4.2	0.9	23.5	土器片	切り込み２か所。単節縄文ＲＬが施されている胴部片。	Ｈ５d8区	
44	土器片錘	5.1	5.7	1.4	38.0	土器片	切り込み２か所。縄文ＲＬに隆帯が施されている胴部片。	Ｉ５j6区	
45	土器片錘	3.9	2.9	1.0	12.6	土器片	切り込み２か所。無文の口縁部片。	Ｋ６a1区	
46	土器片錘	5.8	5.4	1.5	50.2	土器片	切り込み２か所。単節縄文ＲＬに隆帯が施されている胴部片。	Ｈ５d8区	
47	土器片錘	3.5	3.3	1.0	15.3	土器片	切り込み２か所。無文の口縁部片。	Ｉ６e6区	
48	土器片錘	5.0	4.3	1.0	25.2	土器片	切り込み２か所。無節縄文に沈線が施されている胴部片。	Ｈ５d8区	
49	土器片錘	6.8	4.6	1.0	32.5	土器片	切り込み２か所。無文の口縁部片。	Ｊ５b6区	



第22図　遺構外出土遺物実測図(1)



第23図　遺構外出土遺物実測図(2)



第24図　遺構外出土遺物実測図

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
50	大珠	8.7	3.2	1.9	107.6	ヒスイ	全体的によく研磨され，色調は黄褐色で，淡い緑が一部に見られる。	K 6 d5区	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
51	土師器	坏	[11.0]	3.4	－	長石・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	J 4 f3区	20%
52	土師器	皿	[10.0]	1.7	[7.0]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部両面横ナデ。	J 5 j4区	25%
53	須恵器	高台付坏	－	(2.0)	6.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後，ナデ。	K 5 d6区	10%
54	須恵器	高台付坏	－	(2.0)	[9.0]	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後，ナデ。	K 6 a1区	10%

表1　礎石建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	桁×梁	規格(m)			面積(㎡)	構造	掘込地業(cm)			備考
				規模	桁行柱間	梁行柱間			形態	長径	短径	
1	G 4 e9	N－6°－W	－	23.5×11.2	－	－	263.2	総柱構造	掘込地業	－	－	地業面に2列の小ピット
2	G 5 j7	N－7°－W	3×3	5.9×4.5	2.3～2.4	1.5～1.6	26.6	総柱構造	坪地業	88～106	80～88	地業内に白色粘土
3	H 5 d7	N－8°－W	3×3	4.9×6.5	1.9～2.3	1.6～1.7	31.9	総柱構造	坪地業	84～124	80～82	地業内に白色粘土
4	H 5 h7	N－7°－W	－	7.9×6.9	－	－	54.5	総柱構造	掘込地業	－	－	
5	H 5 d1	N－7°－W	[3×3]	5.6×(3.3)	1.9	1.7～1.8	(18.5)	総柱構造	坪地業	79～110	70～95	地業内に白色粘土
6	H 5 g1	N－7°－W	－	7×(2.3)	－	－	(16.1)	総柱構造	掘込地業	－	－	
7	H 5 i1	－	－	(6.6×2)	－	－	(13.2)	総柱構造	坪地業	88～106	80～88	地業内に白色粘土
8	I 6 j6	N－81°－W	－	6.5×(7.7)	－	－	(50.1)	総柱構造	掘込地業	－	－	
9	C 3 h0	N－0°－W	－	7.5×(3.3)	－	－	(24.8)	総柱構造	掘込地業	－	－	

表2　掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	規模					構造	柱穴(cm)			備考
			桁×梁	規模(m)	桁行柱間(m)	梁行柱間(m)	面積(㎡)		平面形	長径	短径	
1	I 4 d6	N－86°－W	(3×2)	(7.5×3.6)	2.4前後	1.8前後	(27.0)	総柱構造	長方形	88～139	85～116	
2	I 4 c0	N－86°－W	(4×2)	(9.6×3.1)	2.4前後	3.0前後	(29.8)	総柱構造	不定形	110～134	79～97	
3	I 5 f4	N－86°－E	(1)×3	7.0×5.7	－	2.1前後	33.9	総柱構造か	長方形	(110～140)	(82～98)	

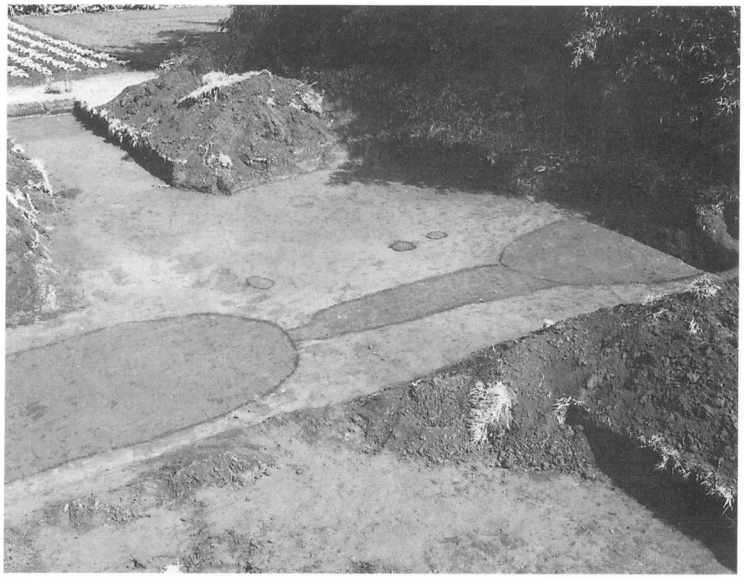
第4節　まとめ

金田西・西坪Ｂ遺跡は，1959年に中学校校庭の拡張工事の時に総柱掘立柱建物跡が確認され，古代河内郡衙の一部と考えられてきた。周辺部からは炭化米が出土し，倉庫群の存在も想定されて古代河内郡の中枢と想定されてきたが，その性格や範囲については未確定であった。

今回の確認調査では，区画溝とその内部に掘立柱建物跡や礎石建物跡で構成される倉庫群が検出されたことで，河内郡衙正倉域の存在が明らかとなった。調査区域が限定されていたため，区画溝の一部は未調査ではあるが，第１号溝により南北245m，東西112m以上の区画が確認され，その南部に第２号溝による約68mの別区画域を有することが確認できた。さらにその南部からも別区画と思われる溝も確認された。内部の施設については，区画溝の中軸線を挟んで，南北に並ぶ２列の礎石建物７棟による倉庫群と，時期の異なる３棟の掘立柱建物跡が検出されている。特に注目されるのは第１号礎石建物跡で，その規模から「法倉」に相当する建物である。確認調査で検出された建物跡の時期については，掘立柱建物跡から礎石建物への変遷と，礎石建物の掘込地業の違いなどから，３期の時期差が考えられる。これらは今後の調査によって確認されていくと考えられるが，河内郡の設置の時期などについても遺構や遺物面からのアプローチが可能となり，その成果は大きい。そのほか西坪Ｂ遺跡では，埋甕のほか，表土中及び確認面から多量の縄文土器が出土し，縄文時代中期の集落跡と複合していることが確認された。

確認調査に並行して河内郡政庁域推定地区において地中レーダーによる探査を行ったところ，正倉院区画溝の北辺から北に300mの地点から北東方向に長さ170mの溝を確認した。四至の確認はできなかったものの，政庁域確認の手がかりとなるもとの思われる。平成13年度に実施される政庁域及び九重東岡廃寺跡の確認調査で，この溝の四至の確認，正倉域南部の区画の性格や範囲が解明されることが，河内郡衙の全容解明につながるものと期待される。

写　真　図　版



第 1 号溝出入り口部
確認状況

第 1 ・ 7 号溝確認状況

第 2 号溝南辺確認状況

第 1 号礎石建物跡
確認状況

第 1 号礎石建物跡
版築土層断面

第 3 号礎石建物跡確認状況

第 1 号掘立柱建物跡
確認状況

第 3 号掘立柱建物跡
確認状況

第 1 号埋甕遺物出土状況

茨城県教育財団文化財調査報告第195集

金田西・西坪Ｂ遺跡

平成14（2002）年３月20日　印刷
平成14（2002）年３月25日　発行

発行　財団法人　茨城県教育財団
〒310－0911 水戸市見和１丁目356番の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
ＴＥＬ　０２９－２２５－６５８７

印刷　（有）山田軽印刷所
〒310－0912 水戸市見川２丁目63－14
ＴＥＬ 029－221－3480

A1a1 X=+10740 Y=+26840
C2a1
3トレンチ
4トレンチ
2トレンチ
1トレンチ
20.0
6トレンチ
5トレンチ
SI1
C4a1
第1号溝
第7号溝
第6号溝
SI2
第9号礎石建物跡
1トレンチ
2トレンチ
第1号溝
3トレンチ
G5a1
4トレンチ
第3号溝
H2a1
5トレンチ
6トレンチ
H4f6
7トレンチ
I4a1
8トレンチ
9トレンチ
SI3
10トレンチ
SI4
11トレンチ
K4a1
K5a1
第2号溝
15トレンチ
12トレンチ
13トレンチ
16トレンチ
第1号礎石建物跡
15トレンチ
第2号礎石建物跡
第4号溝
第5号礎石建物跡
第3号礎石建物跡
第6号礎石建物跡
第4号礎石建物跡
第7号礎石建物跡
14トレンチ
第1号溝
1号掘立柱建物跡
2号掘立柱建物跡
3号掘立柱建物跡
I6a1
第8号礎石建物跡
I7a1
13トレンチ
25.0
26.0
SI5
第5号溝
L6a1
SI6
SI8
SI7
0
40m

付図　金田西・西坪B遺跡遺構全体図